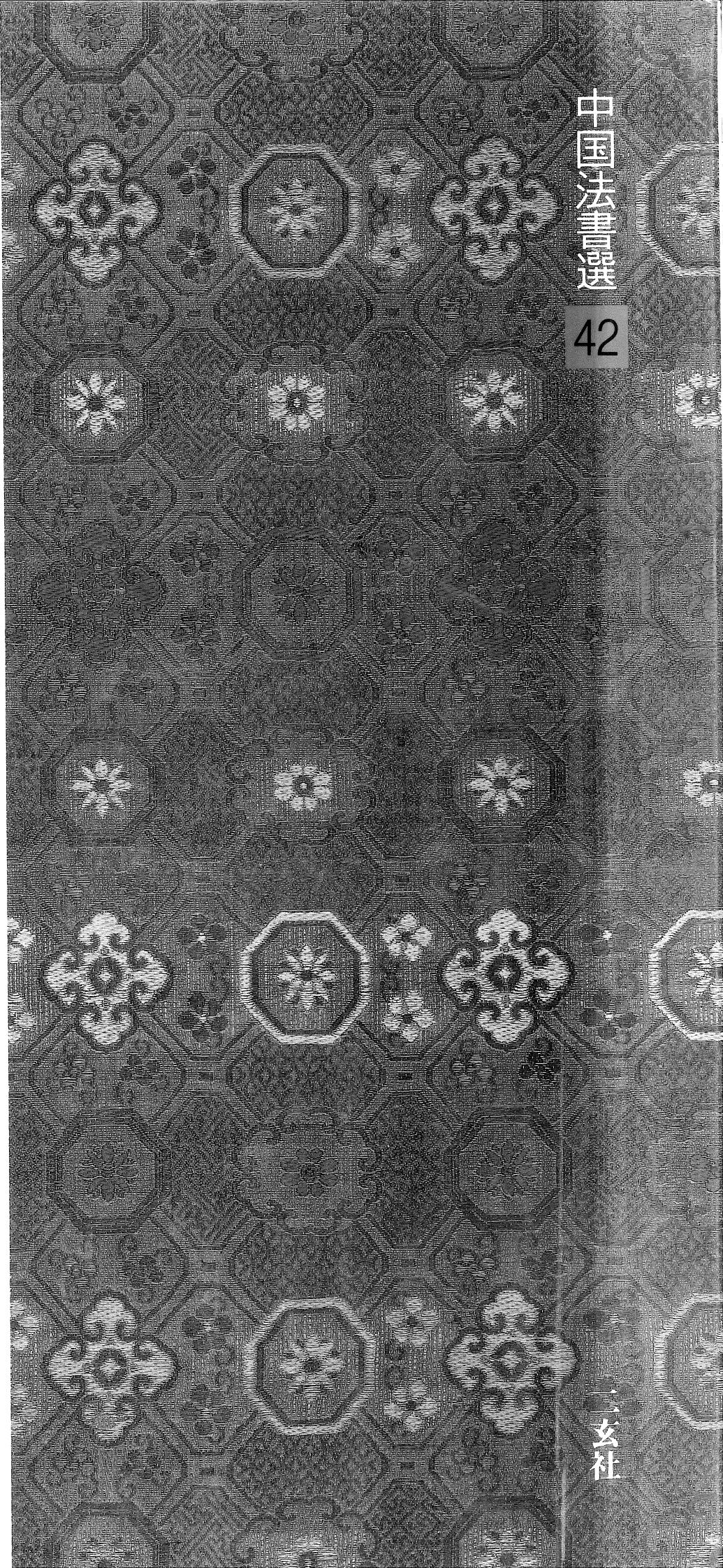


唐 颜真卿  
顏勤札碑



中国法書選  
42

顏勤札碑

唐 颜真卿

一玄社



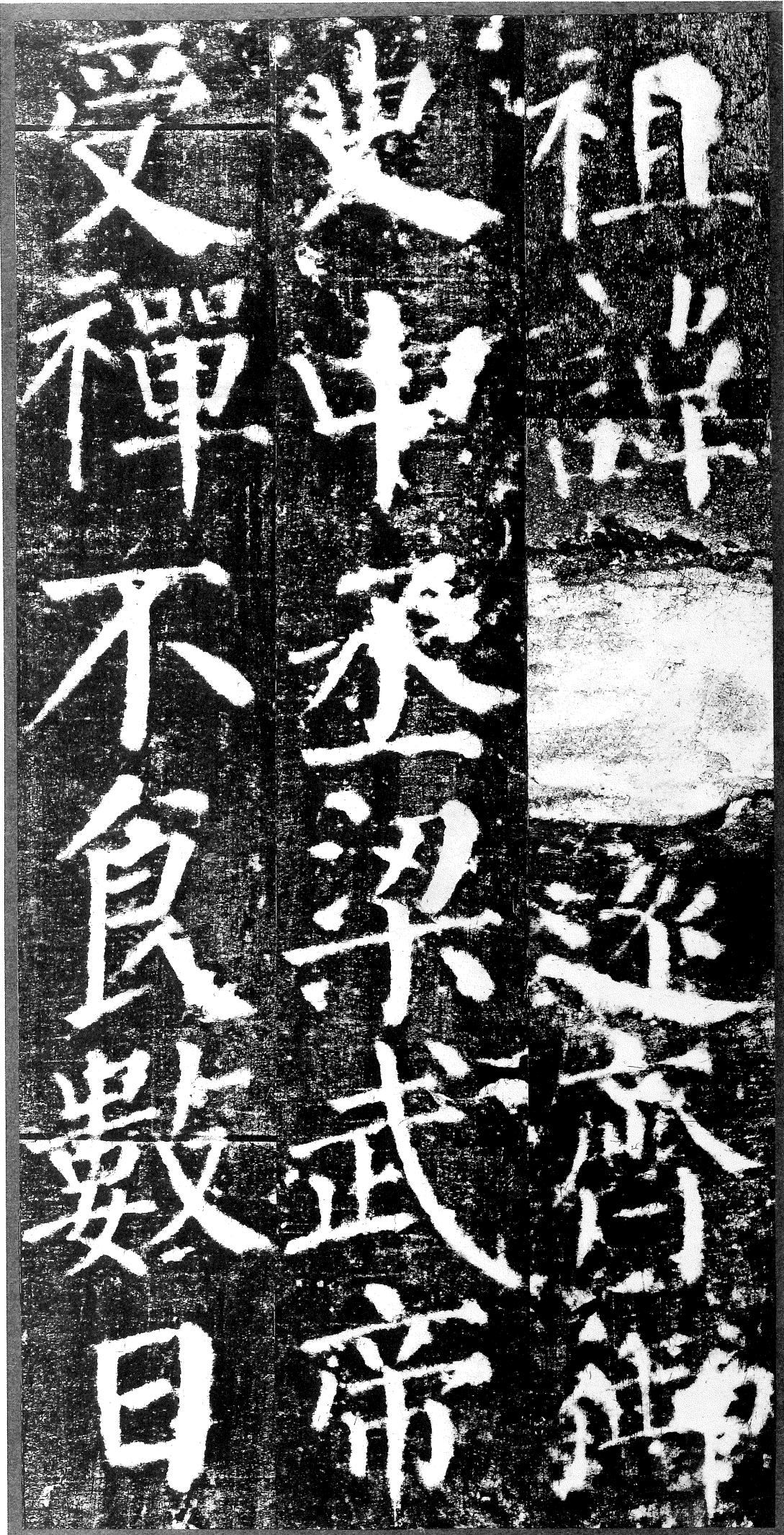
唐故祕書省著作郎夔州都督長史上護軍  
唐の故秘書省著作郎・夔州都督府長史・上護軍



顏君神道碑。曾孫魯郡開國公真卿撰  
顏君神道碑。曾孫魯郡開國公真卿撰

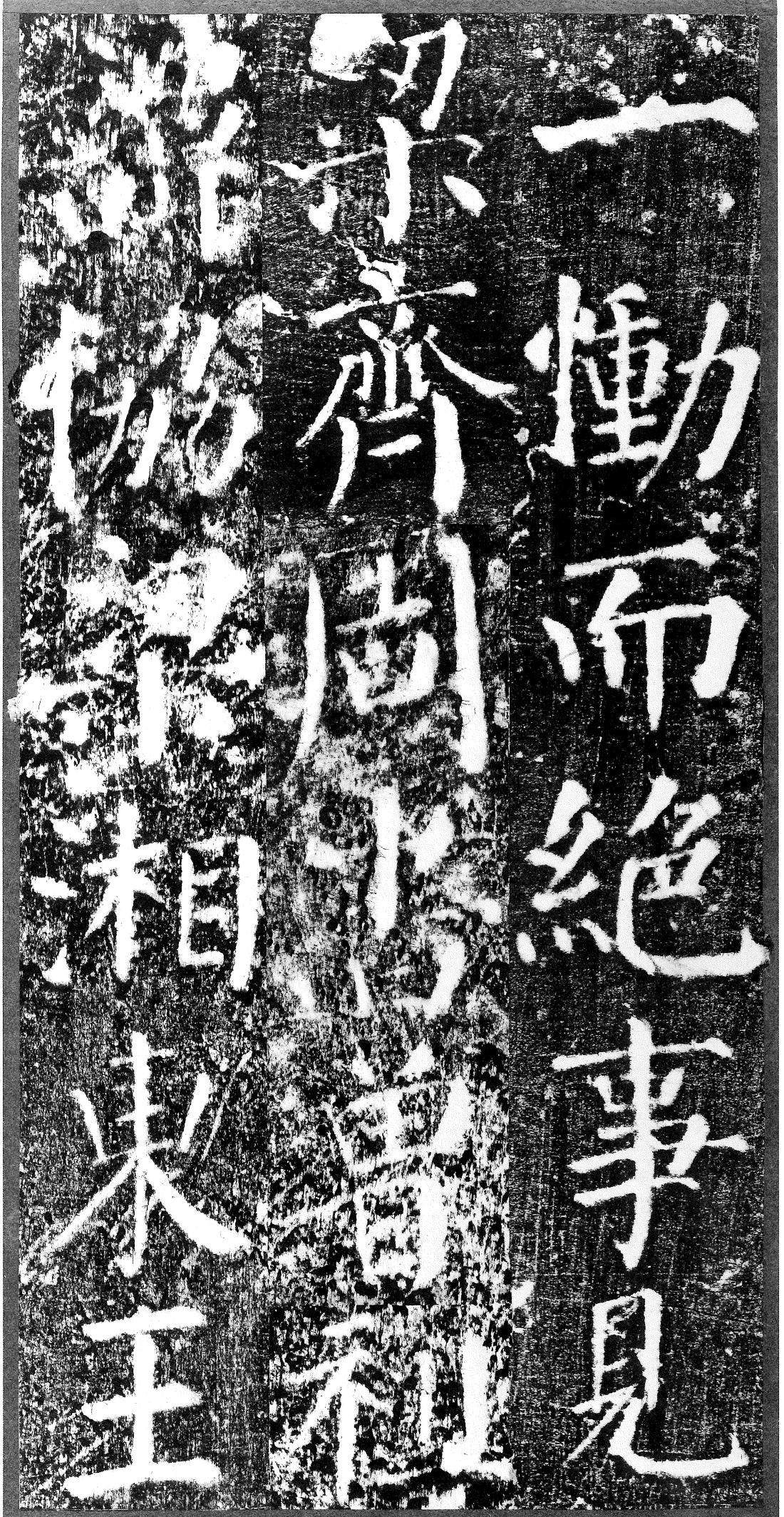


并書。君諱勤禮。字敬。琅邪臨沂人。高  
并びに書す。君諱は勤禮、字は敬、琅邪臨沂の人なり。



祖諱見遠。齊御史中丞。梁武帝受禪。不食數日。

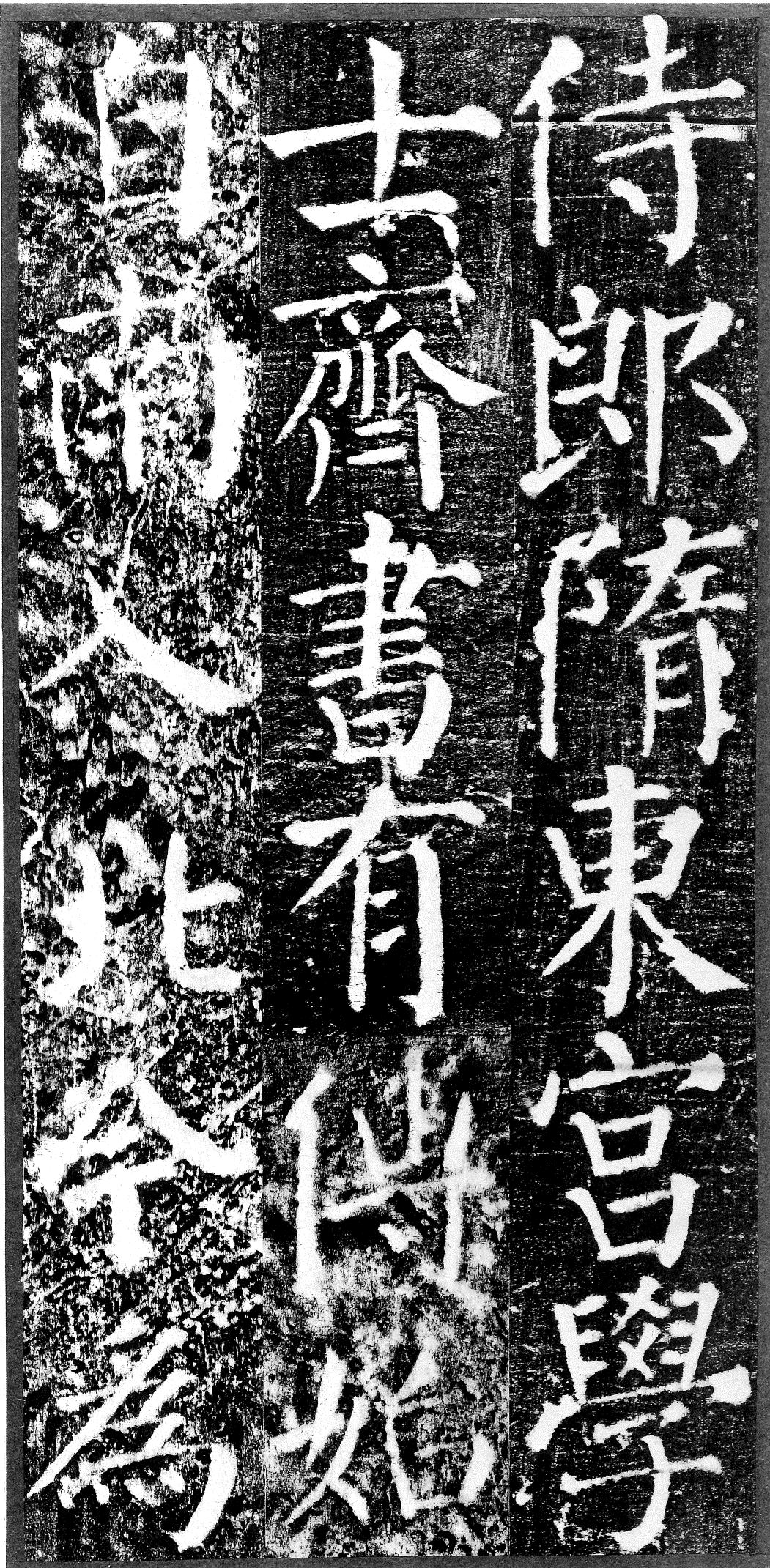
〔高〕祖諱は見遠けんとん、齊の御史中丞なり。梁の武帝りょう禪ぜんを受くるや、食わざること数日、



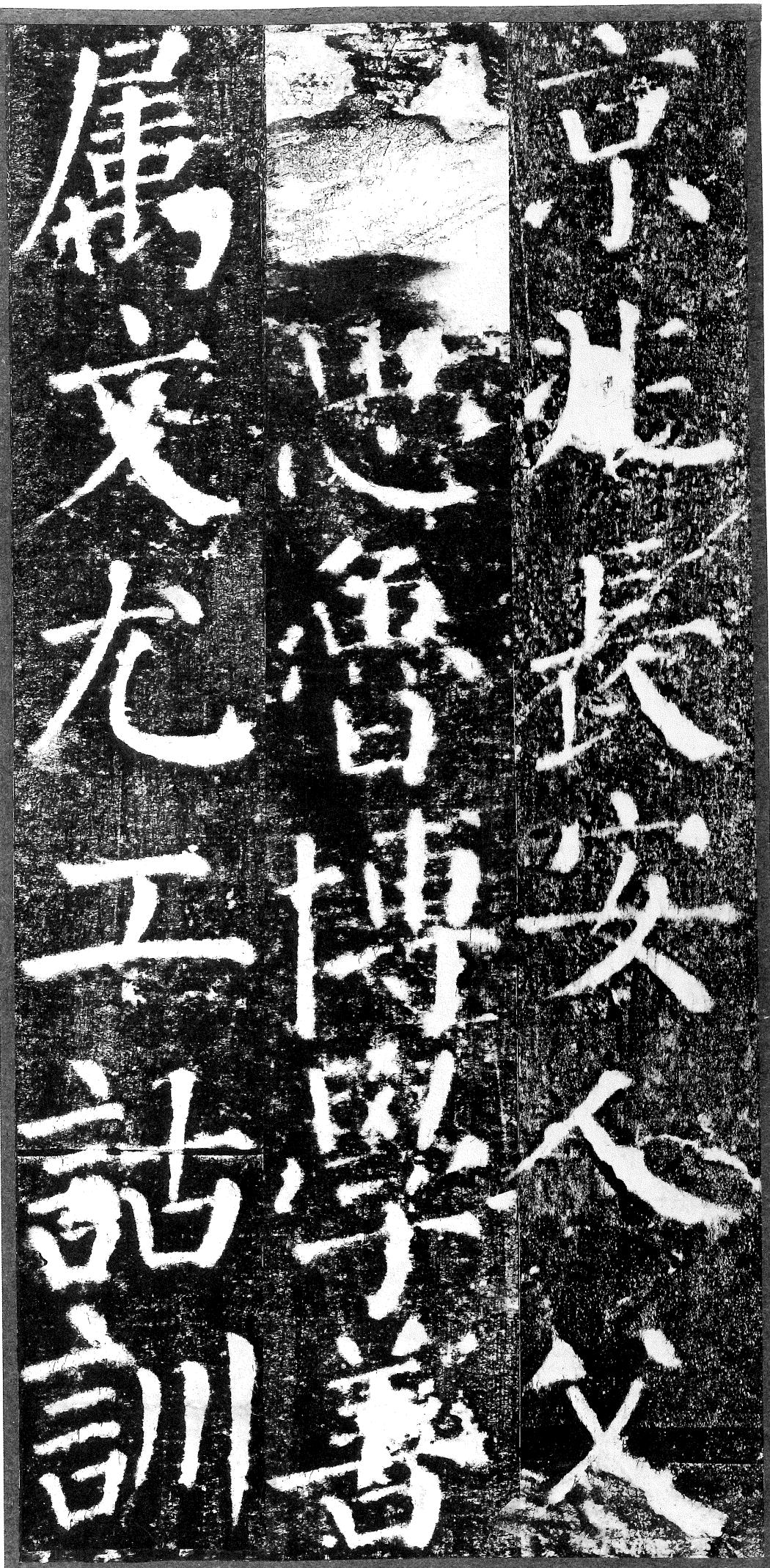
主



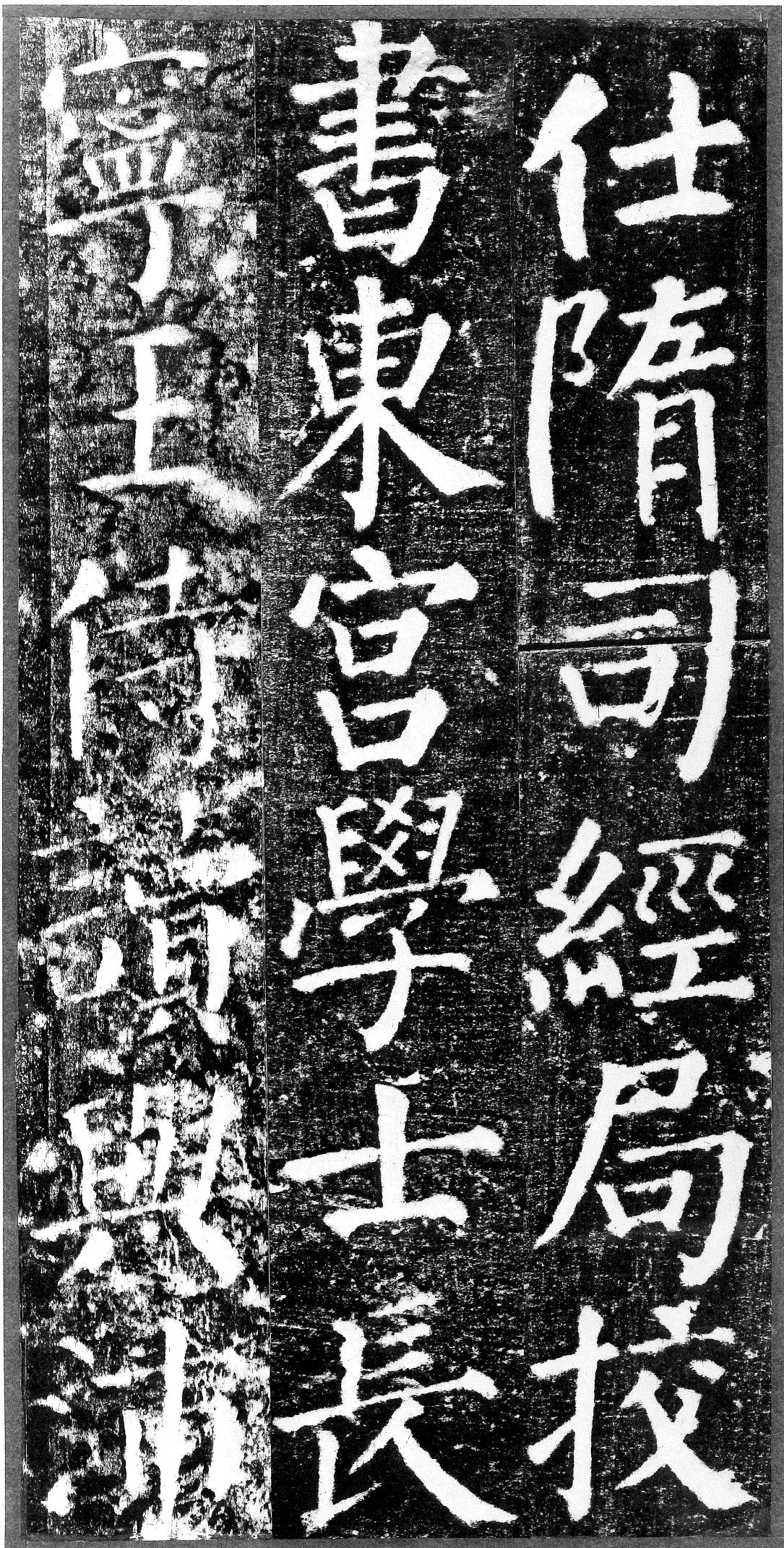
記室參軍。□苑有傳。祖諱之推。北齊給事黃門。  
記室參軍なり。□苑に伝有り。祖 謂は之推、北斉の給事・黃門〔侍郎〕、



侍郎。隋東宮學士。齊書有傳。始自南入北。今爲  
隋の東宮學士なり。齊書に伝有り。始めて南より北に入り、今爲



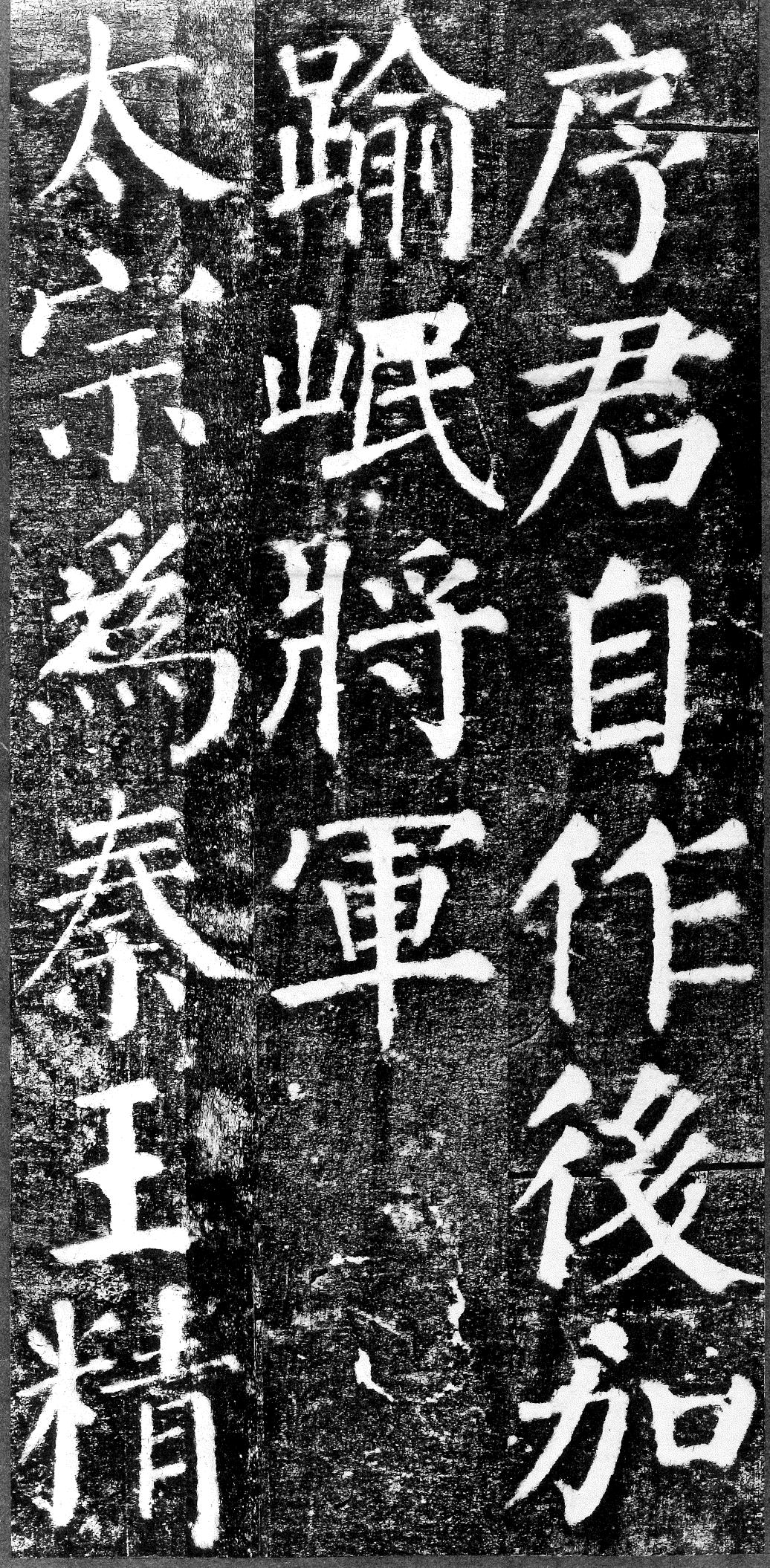
京兆長安人。父諱思魯。博學善屬文。尤工詁訓。  
京兆長安の人と〔為る〕。父諱は思魯、博学にして善く文を属す。尤も詁訓に工す。



仕隋司經局校書東宮學士長寧王侍讀。興沛  
隋に仕えて司經局校書・東宮学士・長寧王侍讀たり。



國劉臻辯論經義。臻屬屈焉。齊書黃門傳云。集  
〔沛〕國の劉臻〔と〕經義を辯論し、臻屢しば焉に屈す。齊書の黄門伝に云う、集の



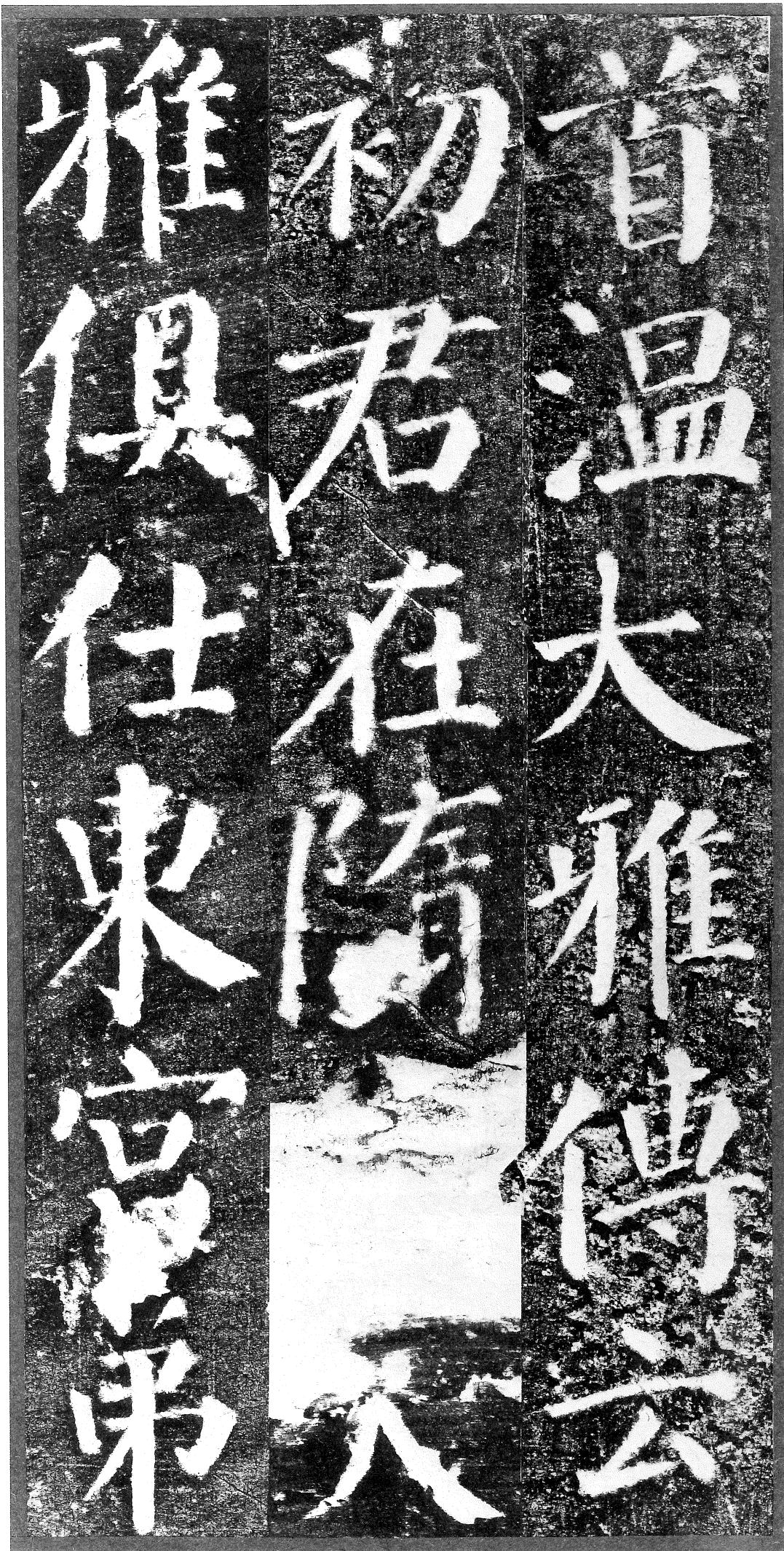
序君自作。後加蹠岷將軍。太宗爲秦王。精  
序は君の自作なりと。後蹠岷將軍を加えらる。太宗秦王たりしそき、



選僚屬。拜記室參軍。□儀同。娶御正中大夫殷。  
僚屬を(精)選し、記室參軍を挙す。□儀同。御正中大夫殷(英童の女)を娶る。



英童女。英童集呼顏郎是也。更唱和者二十餘人。  
英童の集に顏郎と呼ぶは是なり。更に唱和する者二十餘人なり。



首。溫大雅傳云。初君在隋。■大雅俱仕東宮。弟  
溫大雅おん だいがの傳に云う、初め君隋さくに在るや、大雅と俱ともに東宮とうぐうに仕つう。弟の

忠貞思  
楚內力  
祖述而  
自成學  
博通古今  
達達同  
德行而  
無違義  
學問而  
無違道  
忠信而  
無違誠  
仁愛而  
無違義

愍楚與彥博。同直內史省。愍楚弟遊秦與彥將。  
愍楚は彥博と共に内史省に直す。愍楚の弟の遊秦は彦将と



俱典祕閣。一家兄弟。各爲一時人物之選。少時  
俱に秘閣に典す。二家の兄弟、各おのの一時の人物の選と為る。少時の



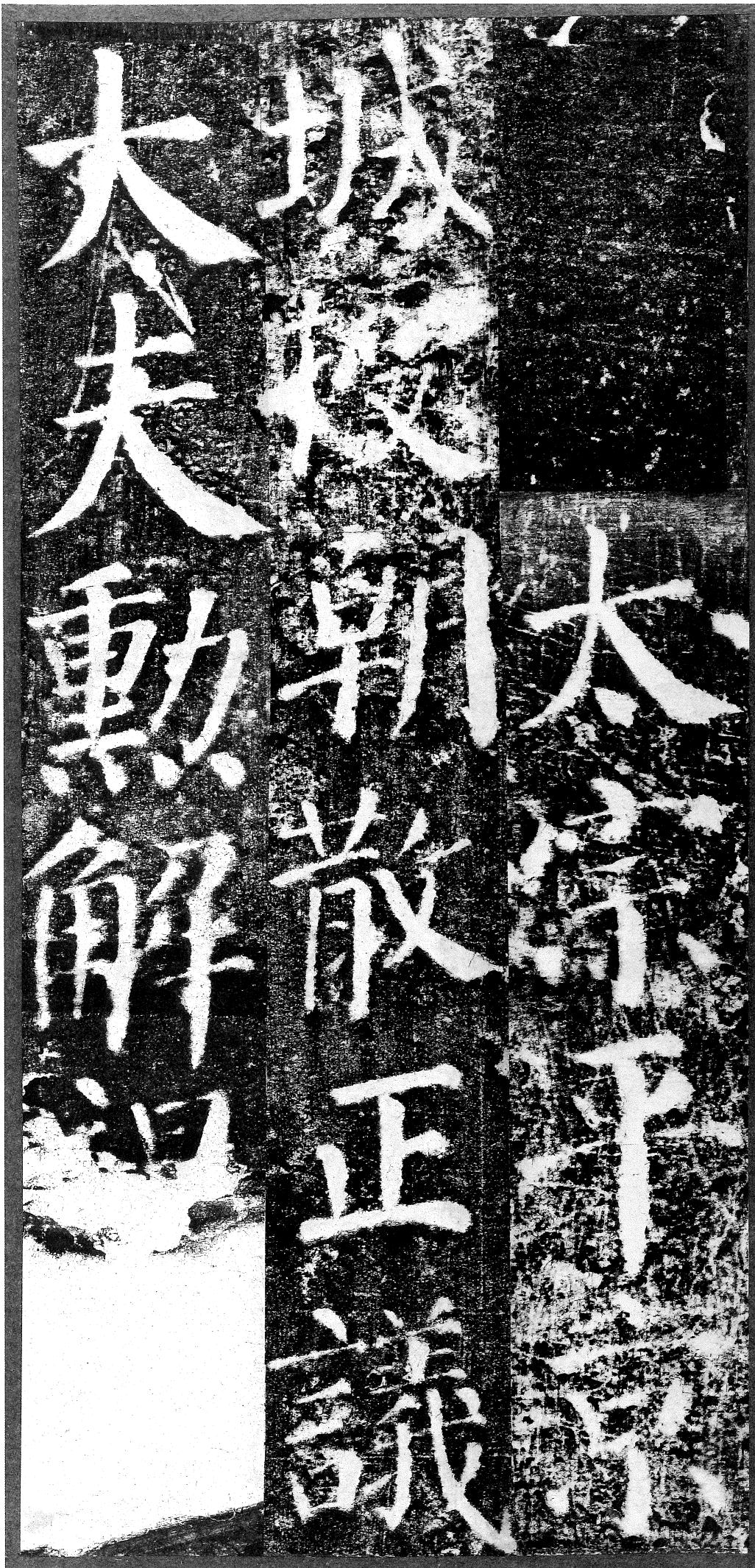
學業。顏氏爲優。其後職位。溫氏爲盛。事具唐史。  
學業は、ヤンジの優ヨウと為し、其後の職位は、温ジを盛ヨウと為す。事は唐史に具ヨリなり。



君幼而朗晤。識量弘遠。工於篆籀。尤精詁訓。  
君幼にして朗晤<sup>ラウム</sup>、識量弘遠<sup>チキョウホンダク</sup>、篆・籀に工みなり。尤も詁訓に精しく、  
祕

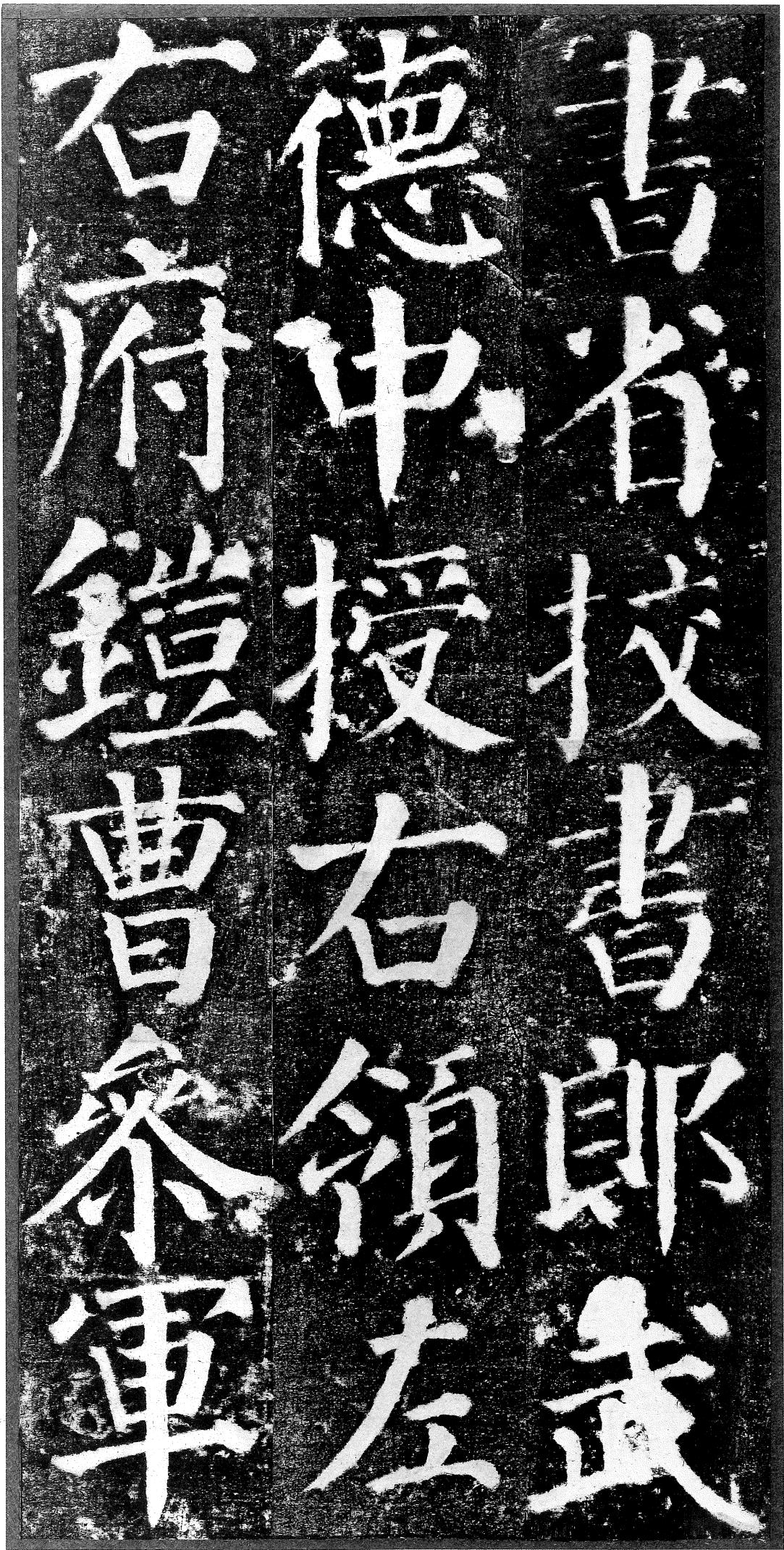


閣司經。史籍多所刊定。義寧元年十一月。從  
(秘)閣司經たりて、史籍刊定する所多し。義寧元年十一月、



太宗平京城。授朝散正議大夫勳。解褐祕

太宗に〔従いて〕京城を平らげ、朝散・正議大夫の勳を授けらる。褐を秘〔書省校書郎〕に解き、



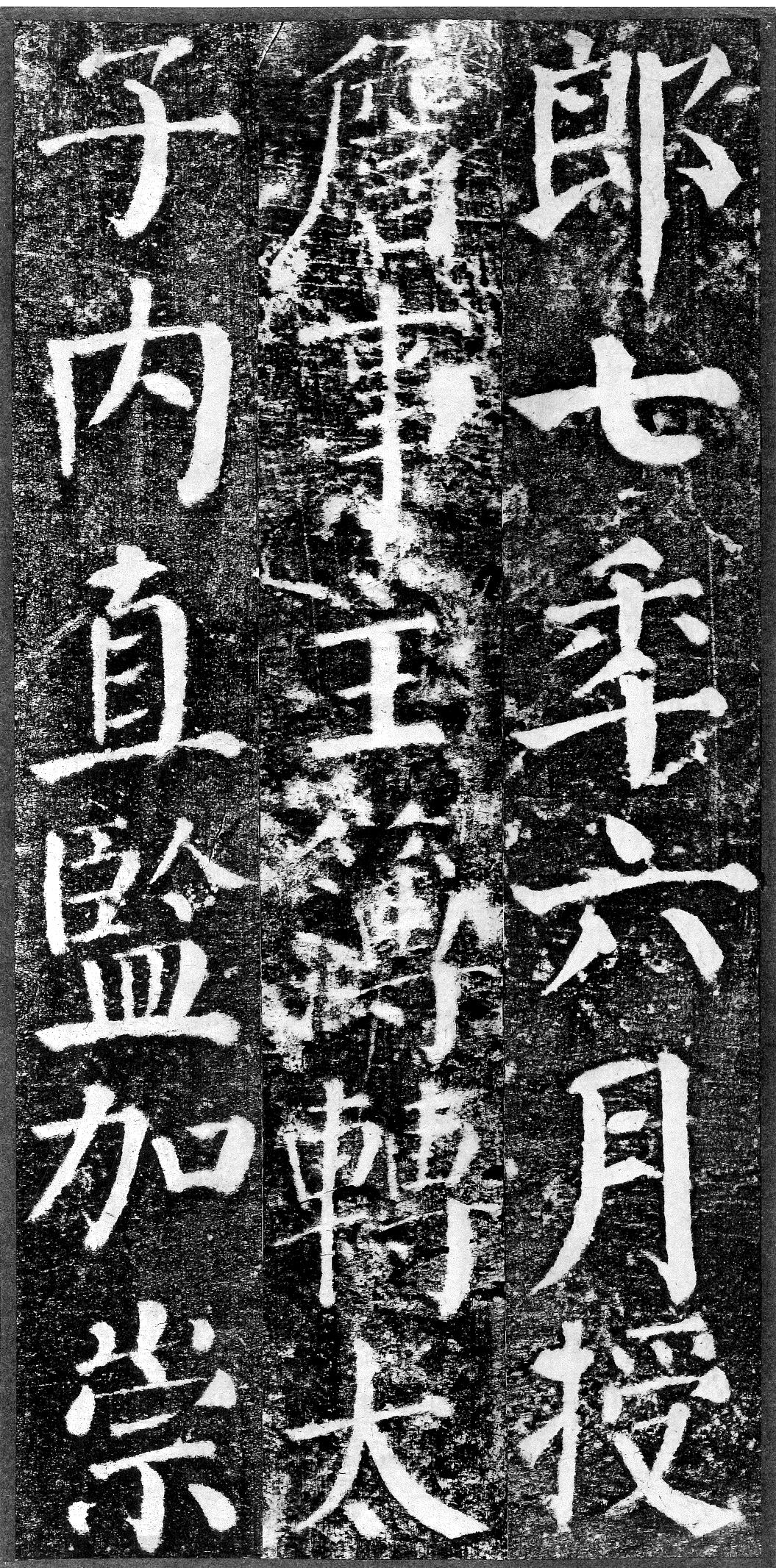
書省校書郎。武德中。授右領左右府鎧曹參軍。  
武德中、右領左右府鎧曹參軍を授けらる。



九年十一月、輕車都尉を授けられ、兼ねて秘書省に直す。貞觀三年六月、

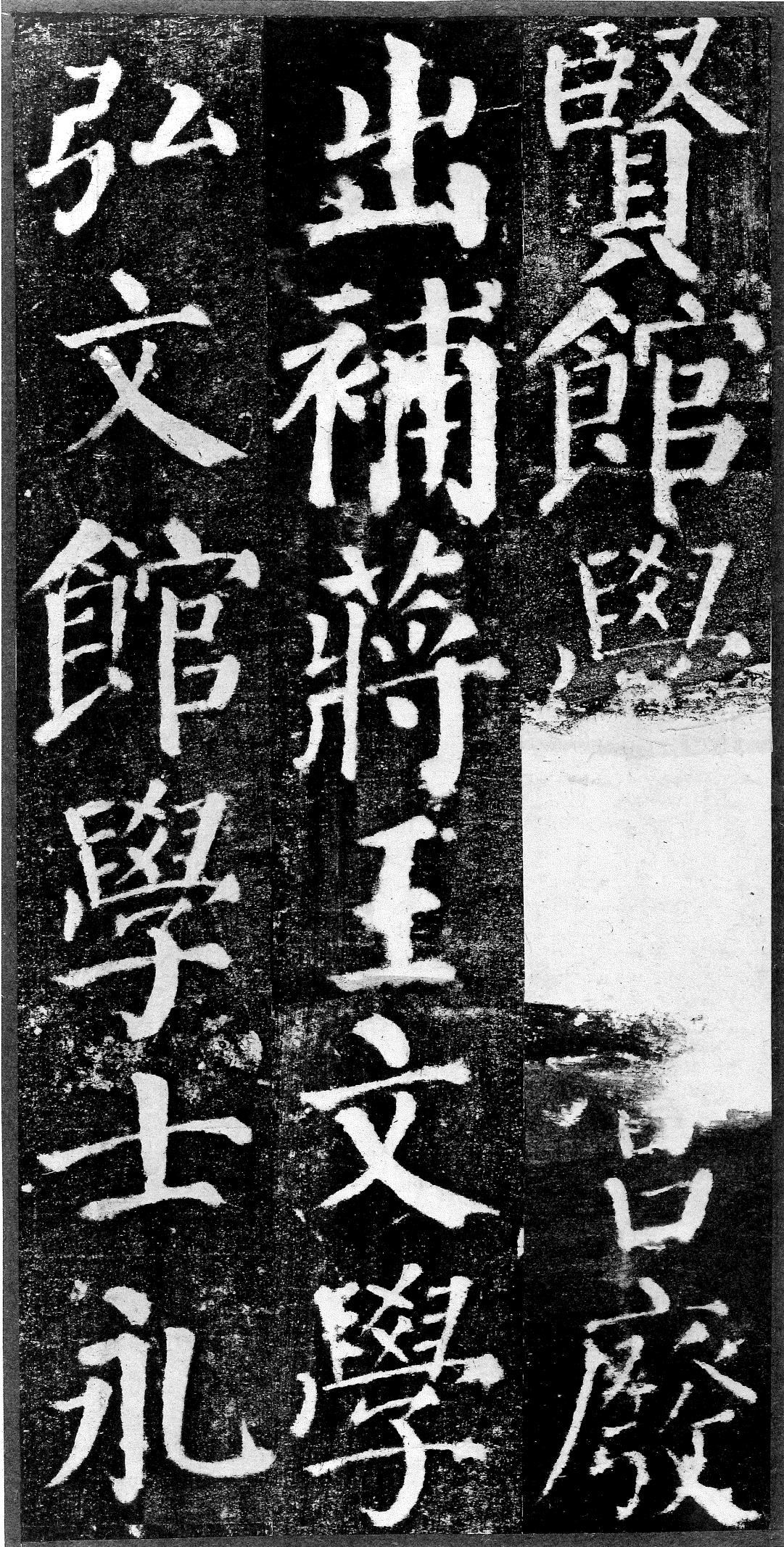


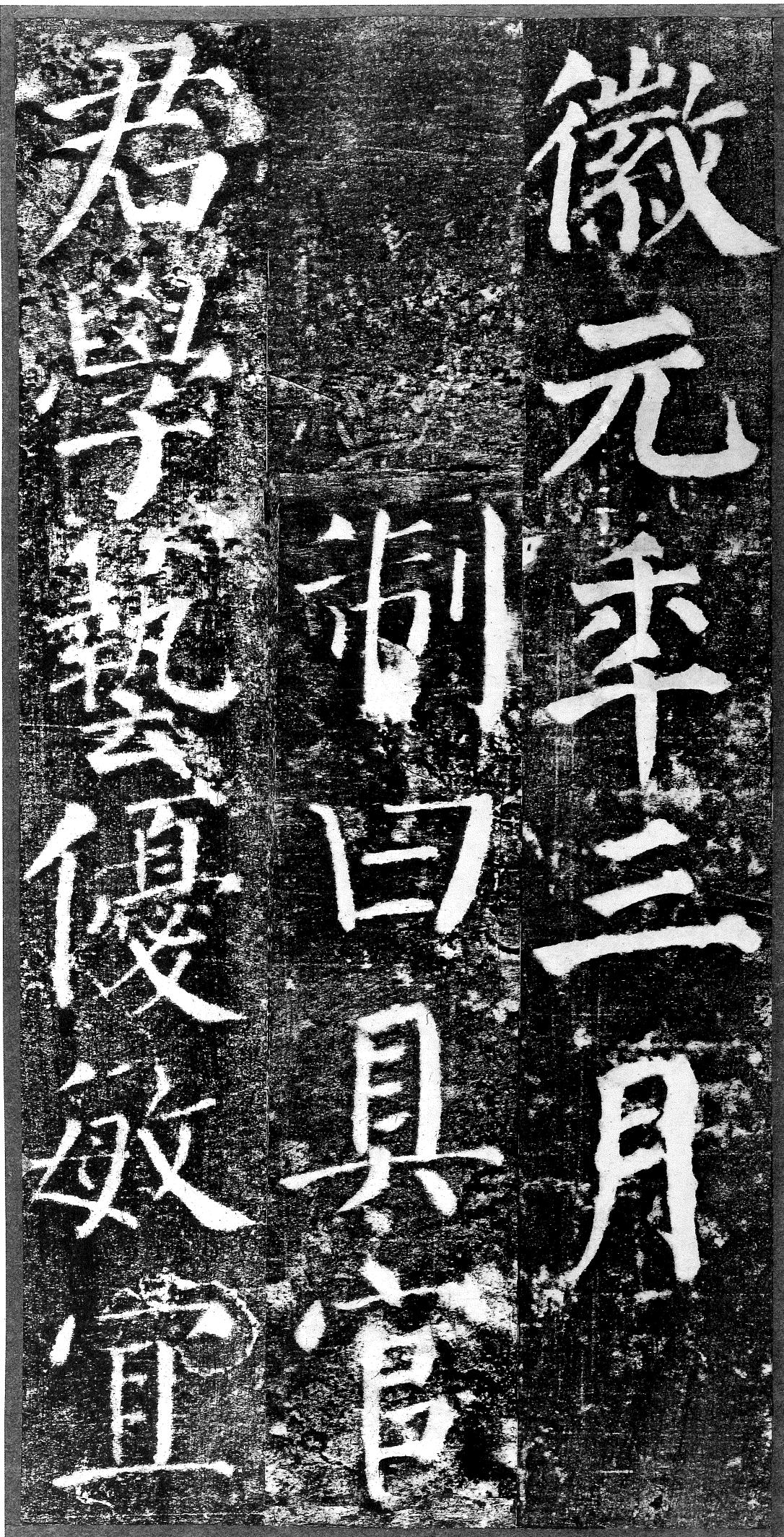
季四月。兼行雍州參軍事。六年七月。授著作佐郎。著作佐郎。六年七月。著作佐郎。授著作佐郎。



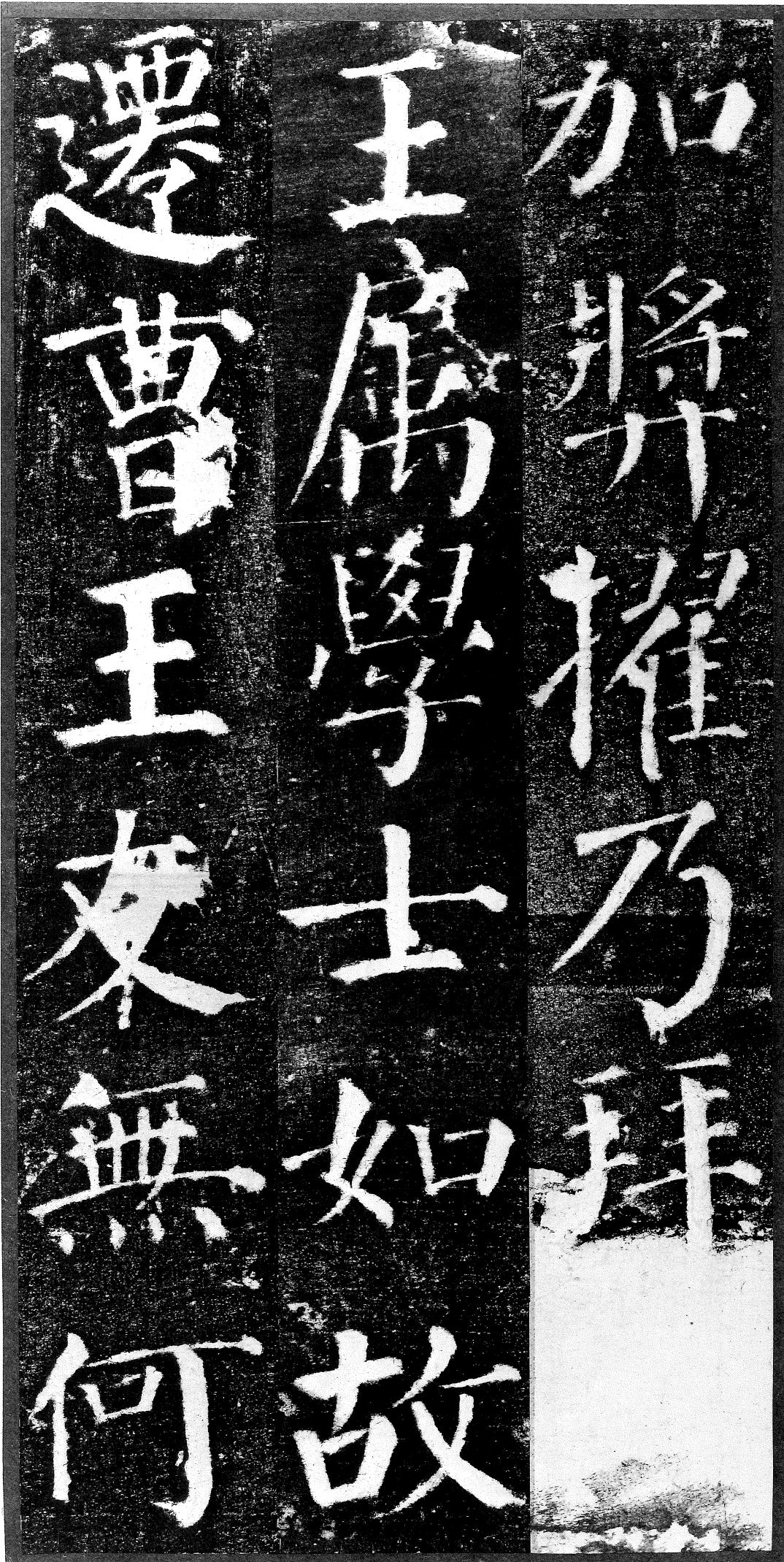
郎。七季六月。授詹事主簿。轉太子內直監。加崇  
七年六月、詹事王灝を授けられ、太子内直監に転じ、崇(賢館学士)を加えらる。

**賢館學士。**宮廢。出補蔣王文學弘文館學士。永  
宮廢せらるるや、出でて蔣王文學・弘文館學士に補せらる。





徽元季三月。制曰。具官。君學藝優敏。宜  
〔永〕徽元年三月、制に曰く、具官、君學藝優敏、宜しく



加獎擢。乃拜陳王屬。學士如故。遷曹王友。無何  
遷擢を加うべしと。乃ち陳王屬を拜せらる。學士は故の如し。曹王友に遷り、何も無くして



拜祕書省著作郎。君與兄祕書監師古。禮部侍  
秘書省著作郎を挙せらる。君は兄の祕書監師古、



郎相時齊名。監興君同時爲崇賢弘文館學士。  
〔礼部寺〕郎相時〔と〕名を齊しくす。監は君と時を同じくして崇賢・弘文館学士と爲る。

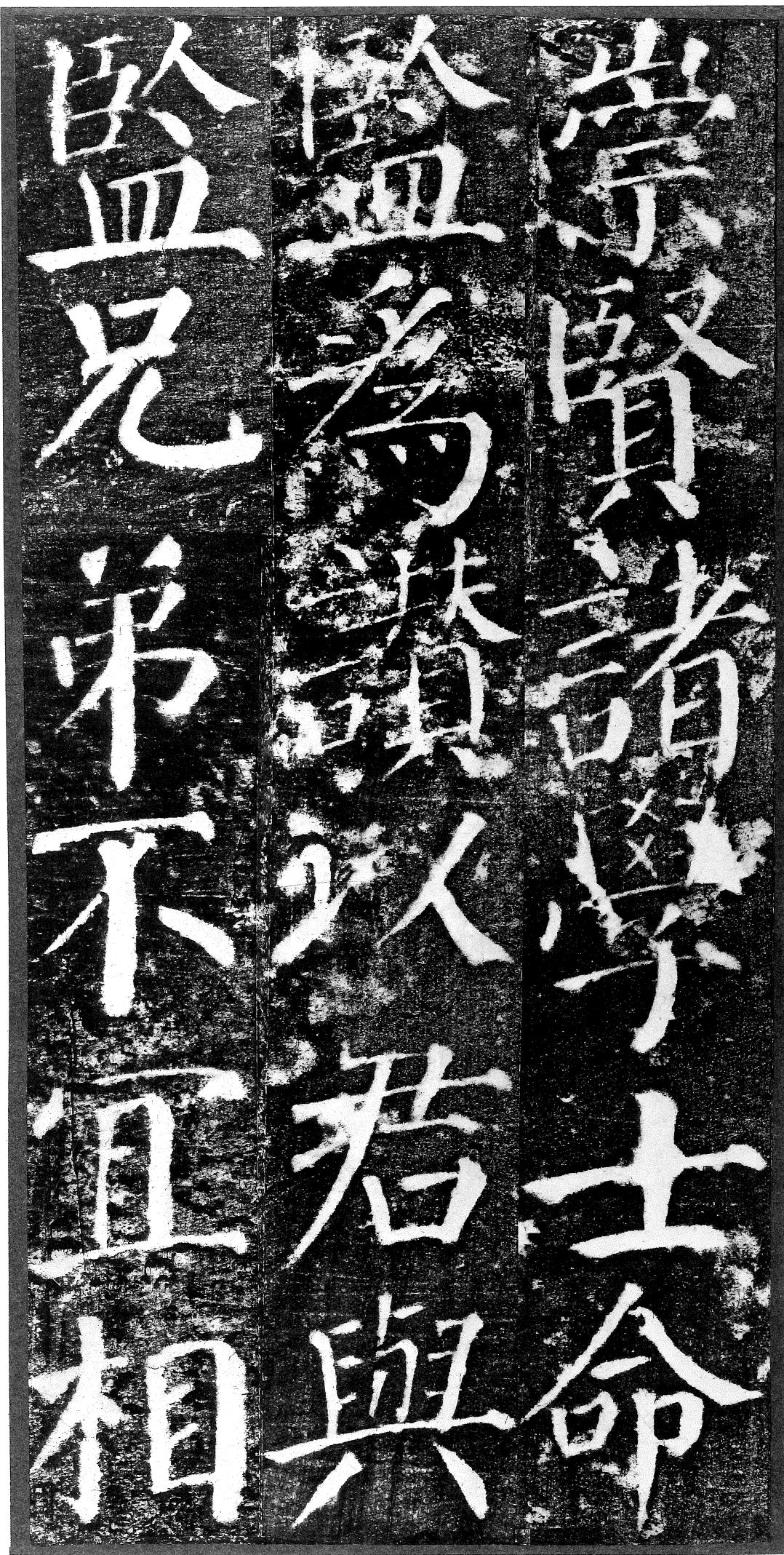


禮部爲天冊府學士。弟太子通事舍人育德。又  
礼部は天冊府学士と為る。弟の太子通事舍人育徳、又た

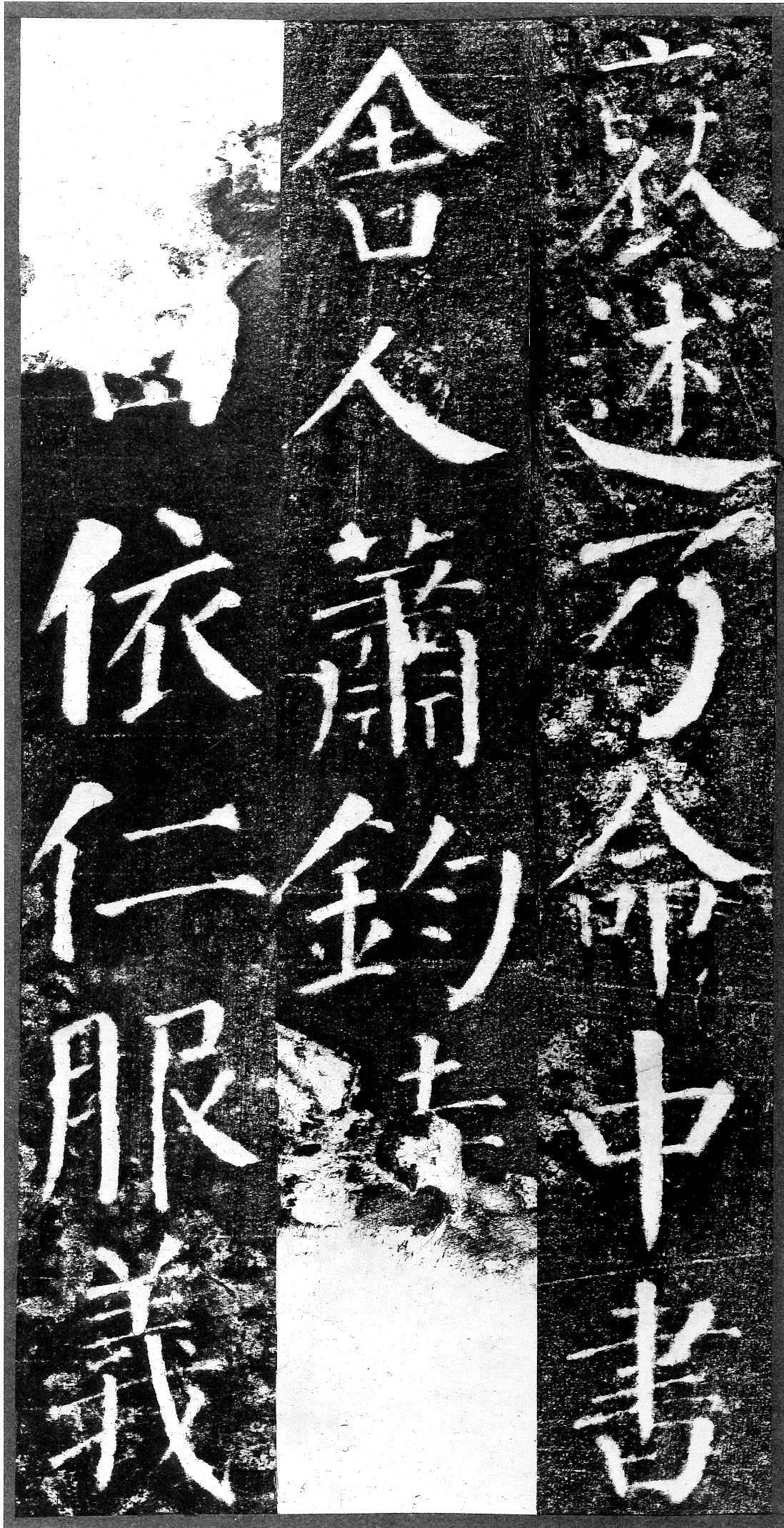
又



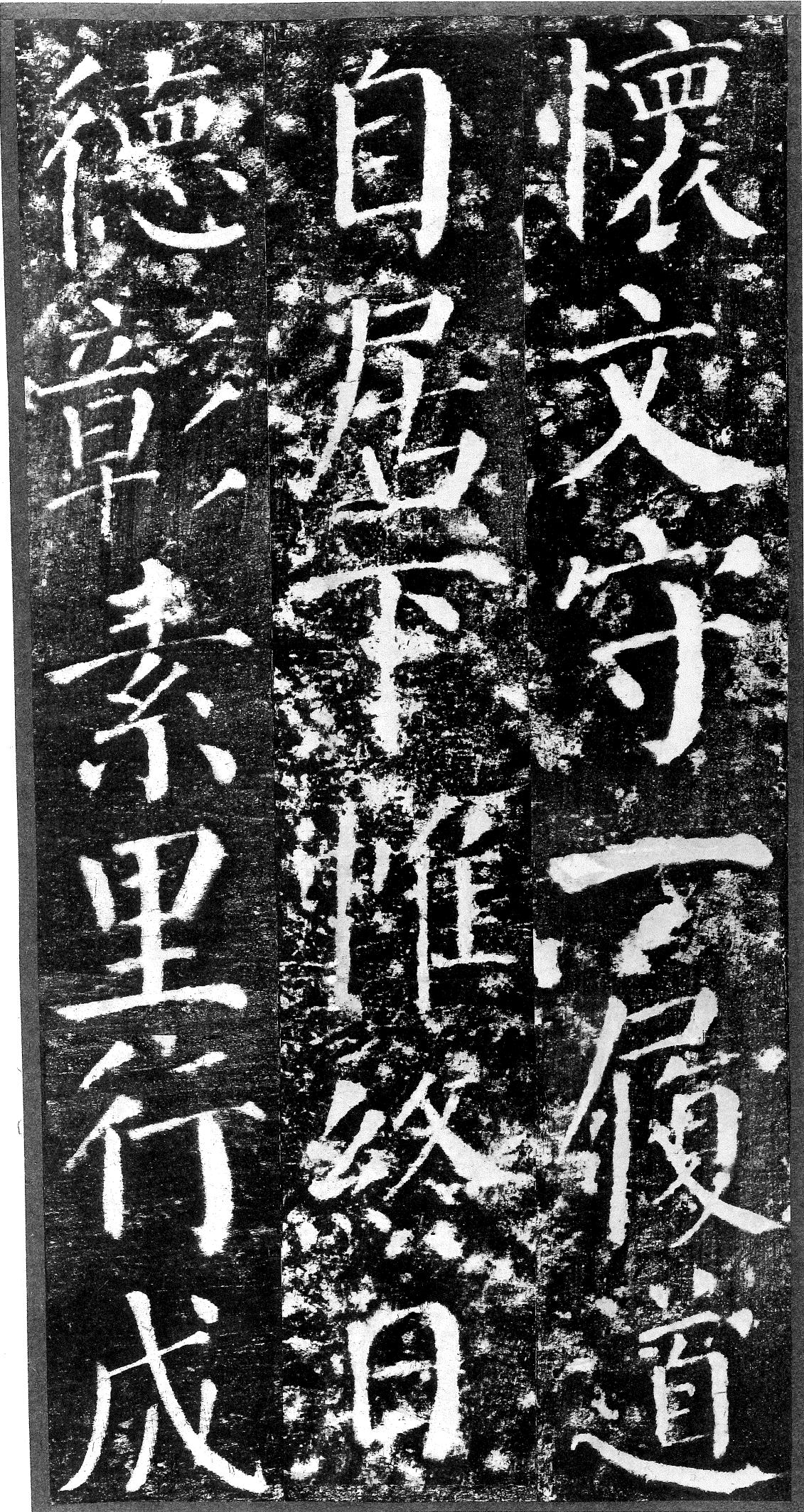
奉令於司經局。校定經史。太宗嘗圖畫  
令<sup>れい</sup>を司經局に奉じて、經史<sup>けいし</sup>を校定す。太宗嘗て「崇賢の諸学士を」図画せしめ、



崇賢諸學士。命監爲讚。以君與監兄弟。不宜相  
監に命じて讃さんを為ならしむ。君は監と兄弟いぢゆたるを以もつて、相あい〔褒述ほうそくすること〕宜ふさしからず。



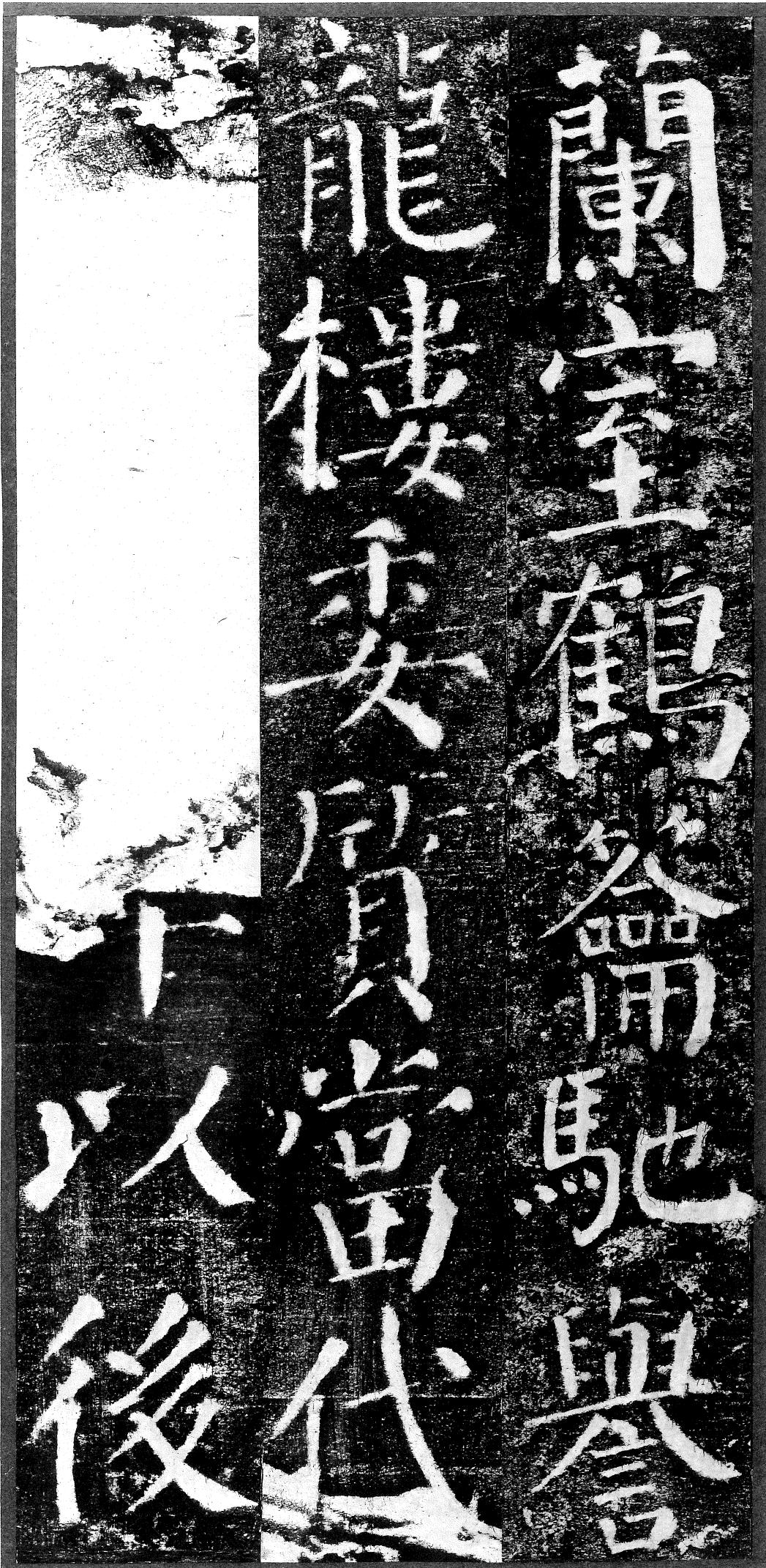
襄述。乃命中書舍人蕭鉤。贊述之。曰。依仁服義。  
乃中書舍人蕭鉤に命じて、之に贊述せしむ。曰く、仁に依り、義に服し、

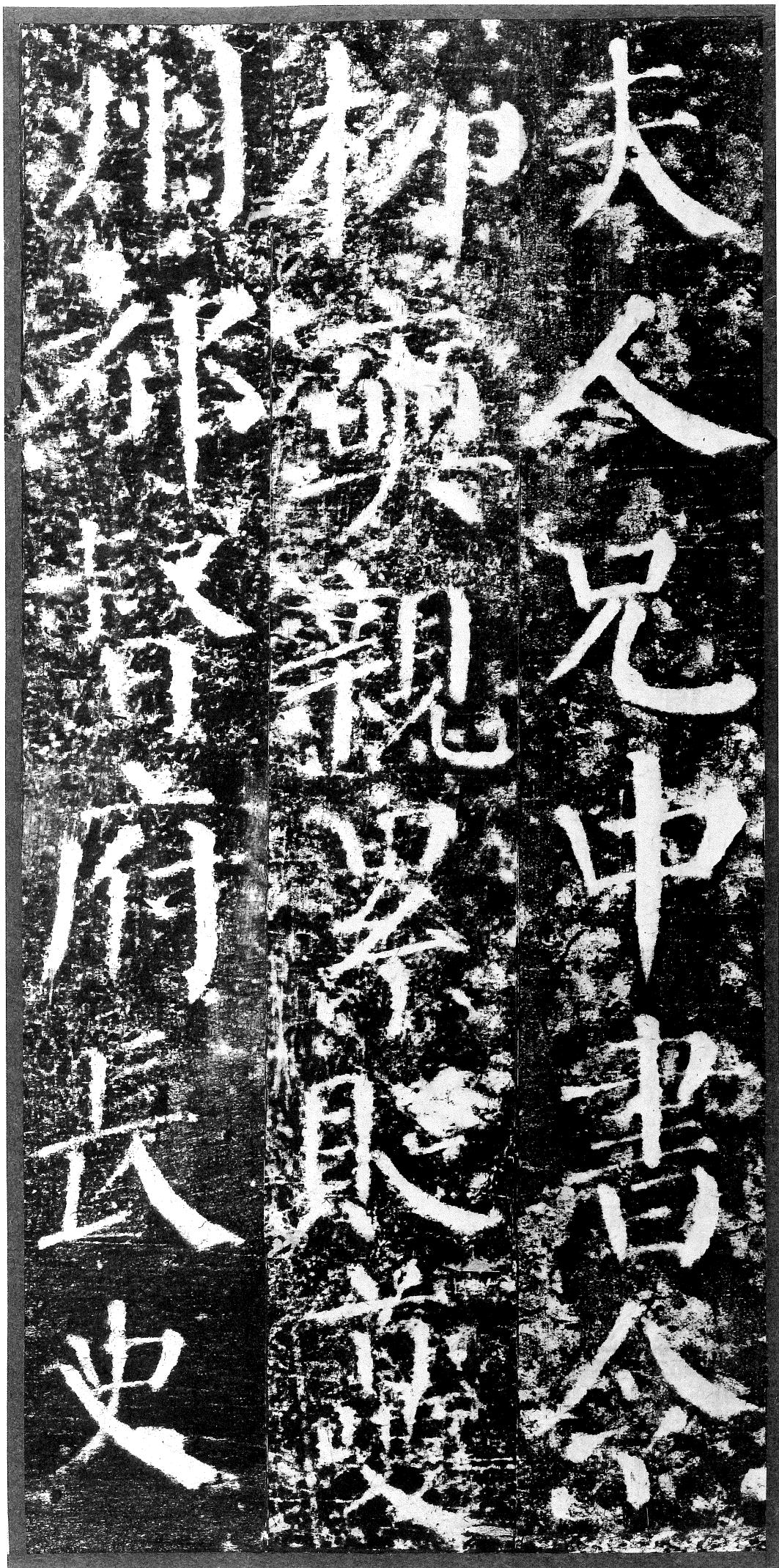


懷文守一。履道自居。下帷終日。德彰素里。行成。

文を  
懷き一  
を守る。  
道を履み  
て自ら居り、  
帷を下ろす  
こと終日、  
徳は素里に  
彰われ、  
行は蘭室に  
なり、

蘭室。鶴籥馳譽。龍樓委質。當代榮也。六季。以後  
鶴籥に譽れを馳せ、龍樓に質を委ぬと。当代之を榮とす。六年、



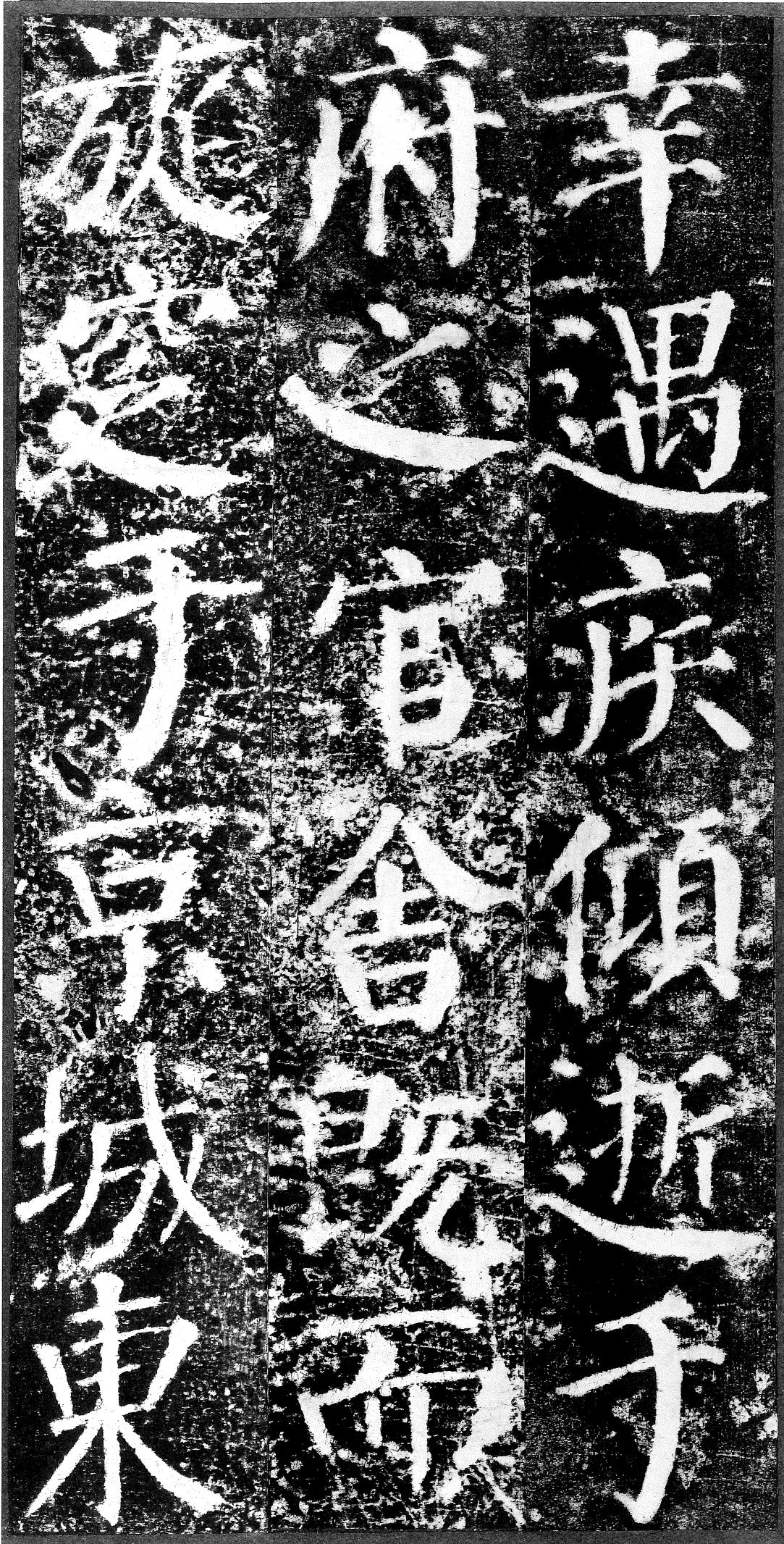


夫人兄中書令柳奭親累。貶夔州都督府長史。

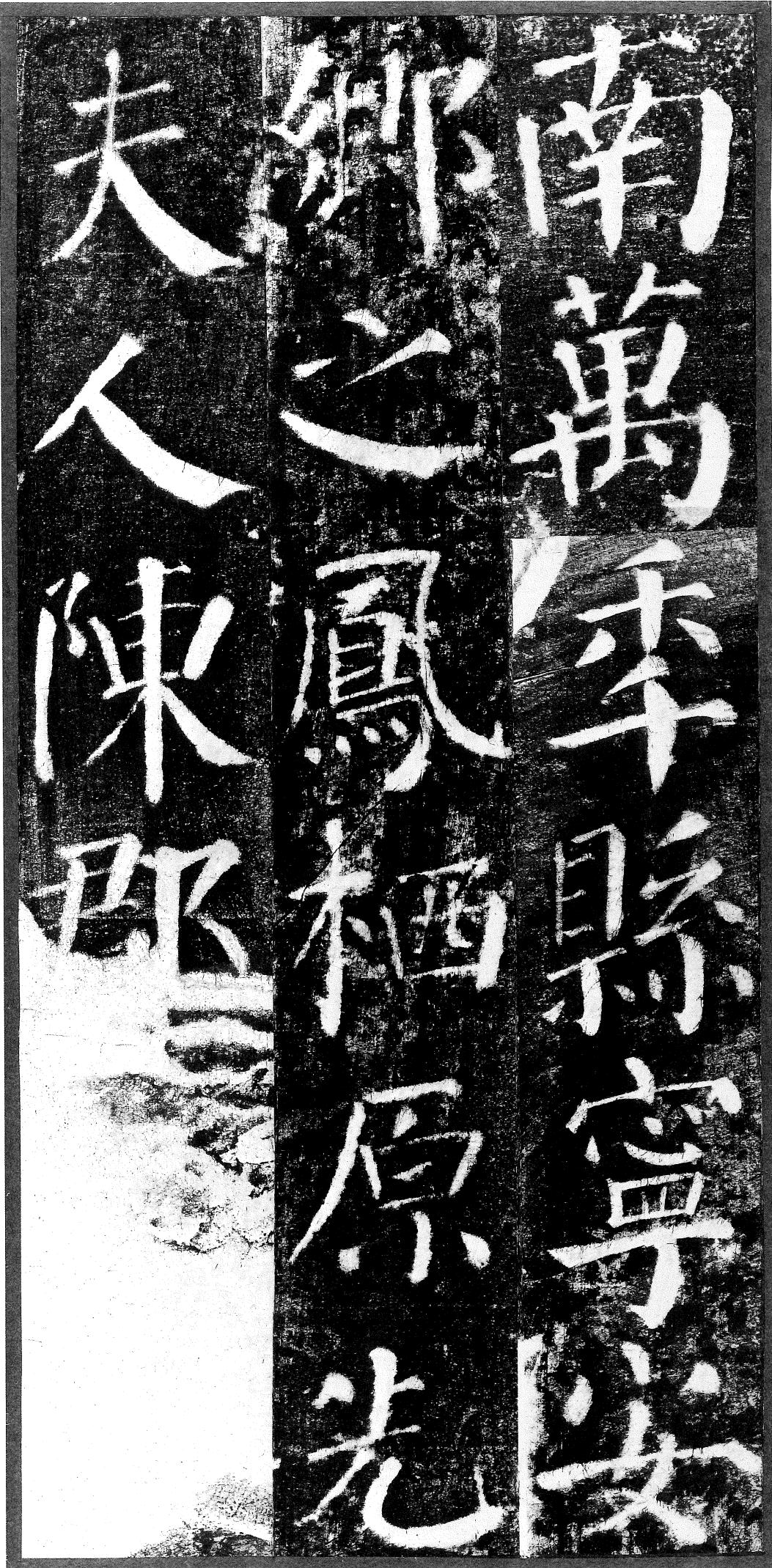
[後]夫人の兄の中書令柳奭の親累なるを〔以て〕、夔州都督府長史に貶とさる。



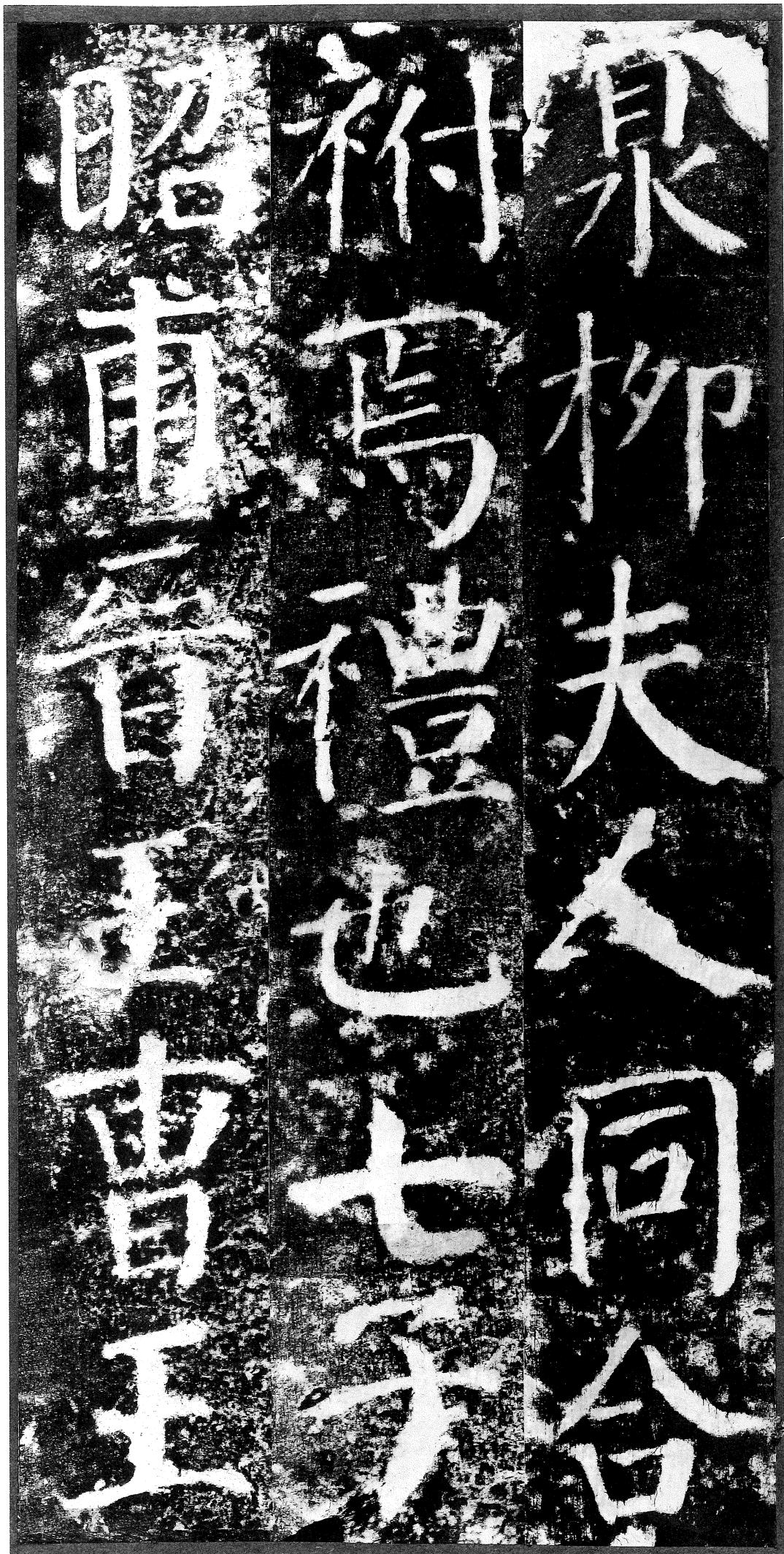
明慶六年。加上護軍。君安時處順。恬無恤色。不  
明慶六年、上護軍を加えらる。君時に安んじて順に処り、恬として恤色無し。



幸遇疾。傾逝于府之官舍。既而旋窪于京城東  
〔不〕幸にして疾に遇い、府の官舎に于いて傾逝す。既にして京城の東(南)



南萬年縣寧安鄉之鳳栖原。先夫人陳郡殷氏。



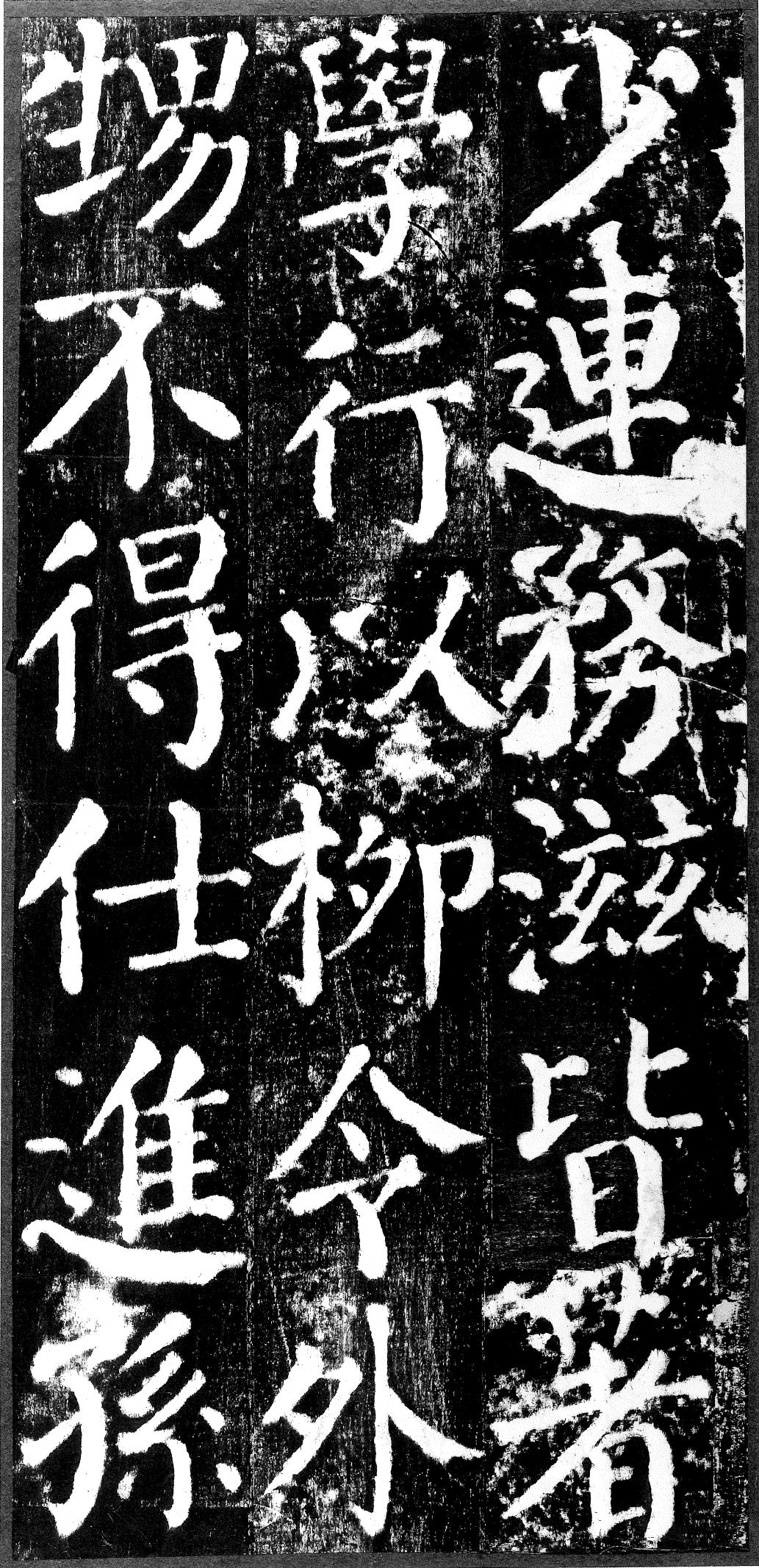
憲柳夫人同合祔焉。  
憲び柳夫人と同に焉に合祔す。祔なり。七子あり。昭甫は晋王・曹王の



侍讀。贈華州刺史。事具真卿所撰神道碑。敬仲  
侍讀たり。華州刺史を贈らる。事は真卿撰する所の神道碑に具なり。敬仲は



吏部郎中。事具劉子玄神道碑。殆庶無恤辟非  
事是劉子玄の神道碑に具なり。殆庶・無恤・辟非。





元孫舉進士。考功員外劉奇。特標榜之。名動海  
元孫は進士に挙げられ、考功員外劉奇、特に之を標榜し、名海〔内〕を動かす。



内。從調。以書判入高等者三。累遷太子舍人。屬  
調に従い、書判を以て高等に入る者三たびなり。太子舍人に累遷す。属たま



**玄宗監國。專掌令畫。滁沂豪三州刺史。**  
玄宗<sup>げんそう</sup>国を監するや、専ら令画<sup>れいが</sup>を掌る。滁<sup>ちゆう</sup>・沂<sup>い</sup>・豪<sup>ごう</sup>三州の刺史たり。

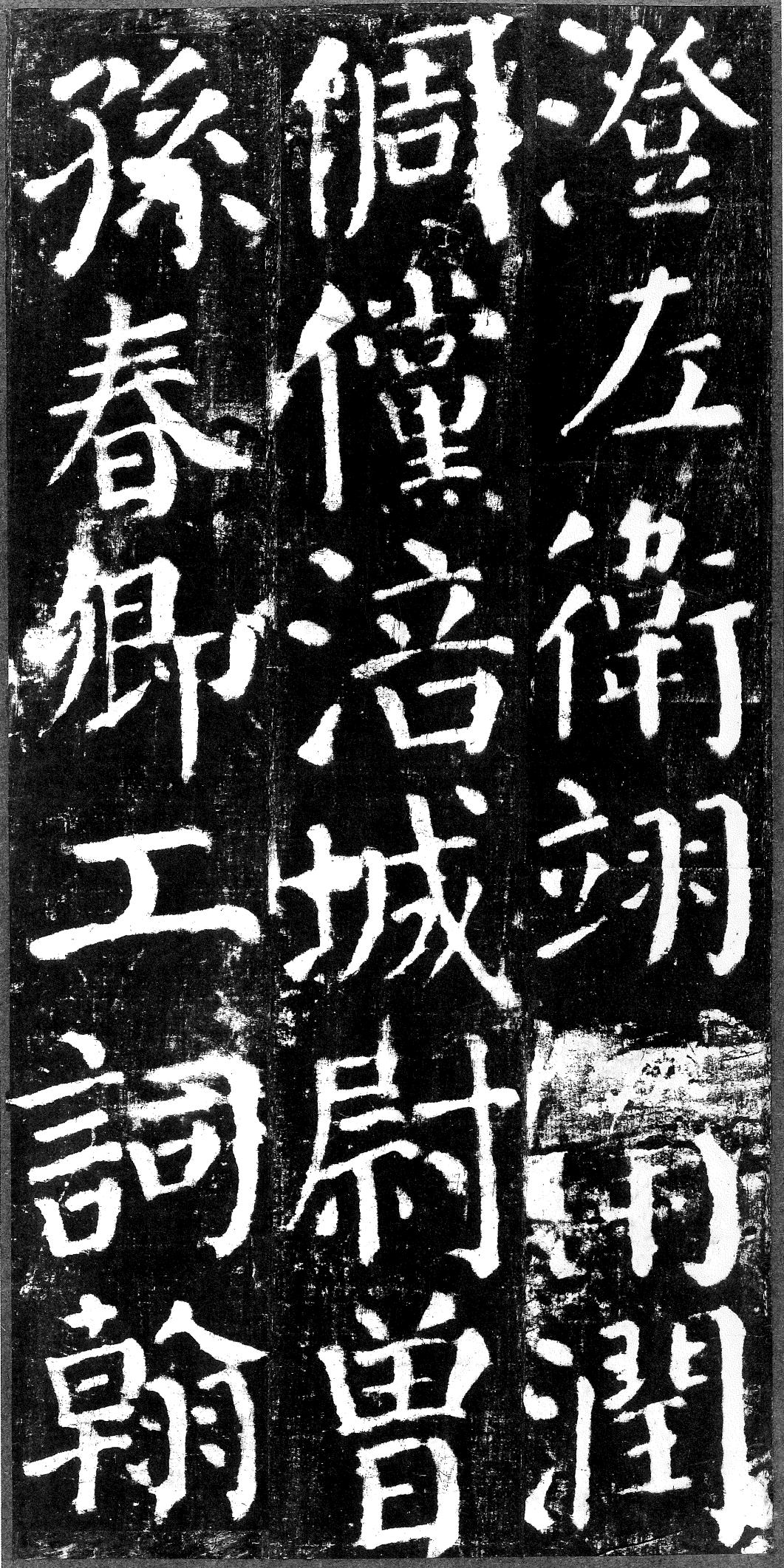


贈祕書監。惟貞頻以書判入高等。歷畿赤尉丞  
秘書監を贈らる。惟貞は頻りに書判を以て高等に入る。  
畿赤尉丞





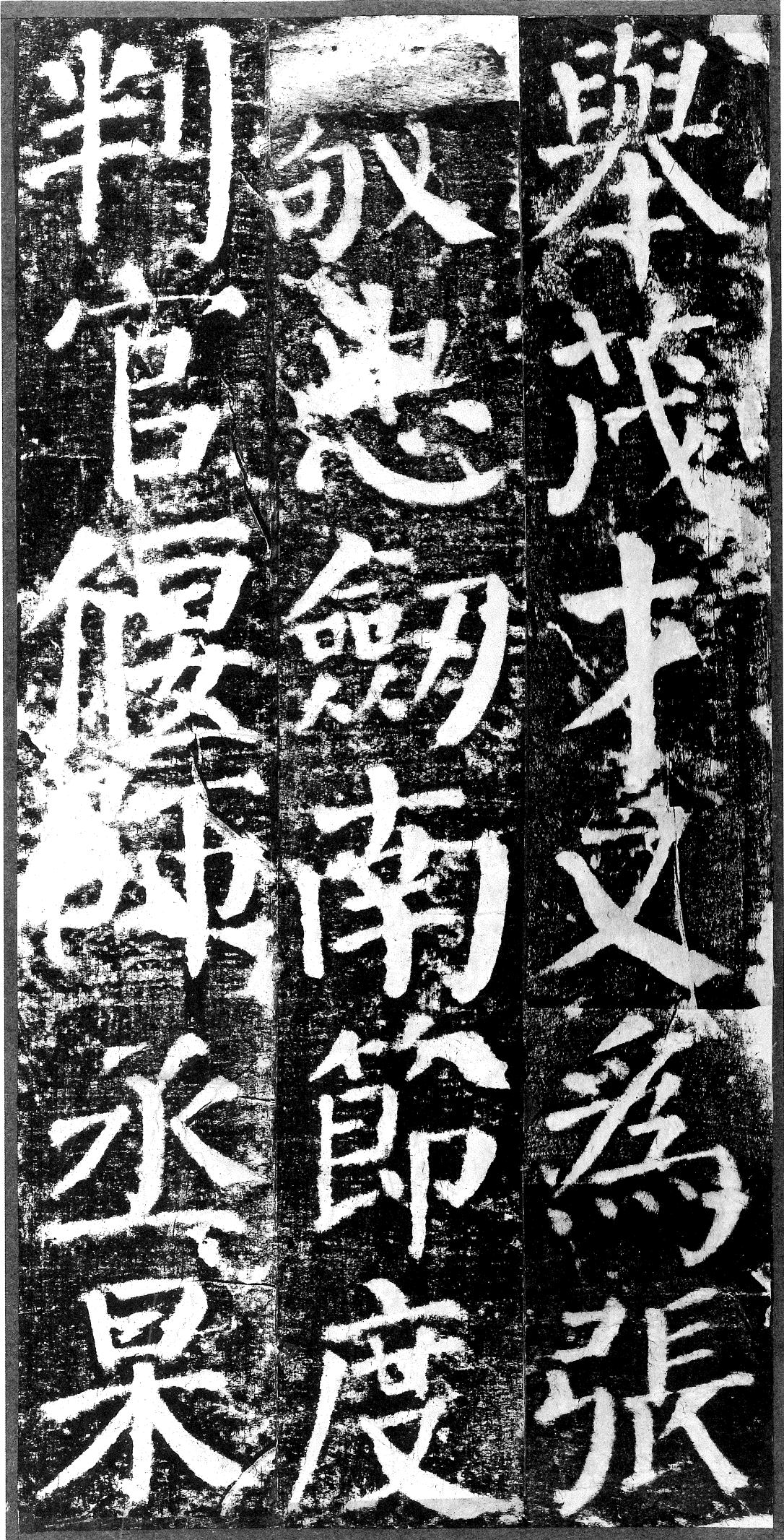
具陸據神道碑。會宗襄州參軍。孝友楚州司馬。  
陸塊の神道碑に具なり。会宗は襄州参軍たり。孝友は楚州司馬たり。



澄左衛翊。潤倜儻。涪城尉。曾孫春卿工詞翰。  
 澄は左衛翊たり。潤は倜儻にして涪城尉たり。曾孫の春卿は詞翰に工みにして、



有風義。剛經。拔萃屋浦蜀二縣尉。故相國蘇頌。  
風義有り。明經たり。犀浦<sup>す</sup>一縣の尉に拔萃せらる。故相國蘇頌は



舉茂才。又爲張敬忠劍南節度判官偃師丞。  
茂才に擧げらる。又た張敬忠劍南節度判官・偃師丞と爲る。

果

卿忠烈。有清識吏幹。累遷太常丞。攝常山太守。  
 (景)卿は忠烈にして、清識の吏幹有り。太常丞に累遷す。常山太守を攝す。





殺逆賊安祿山將李欽湊。開土門。擒其心手何  
逆賊安祿山の將李欽湊を殺す。土門を開き、其の心手の



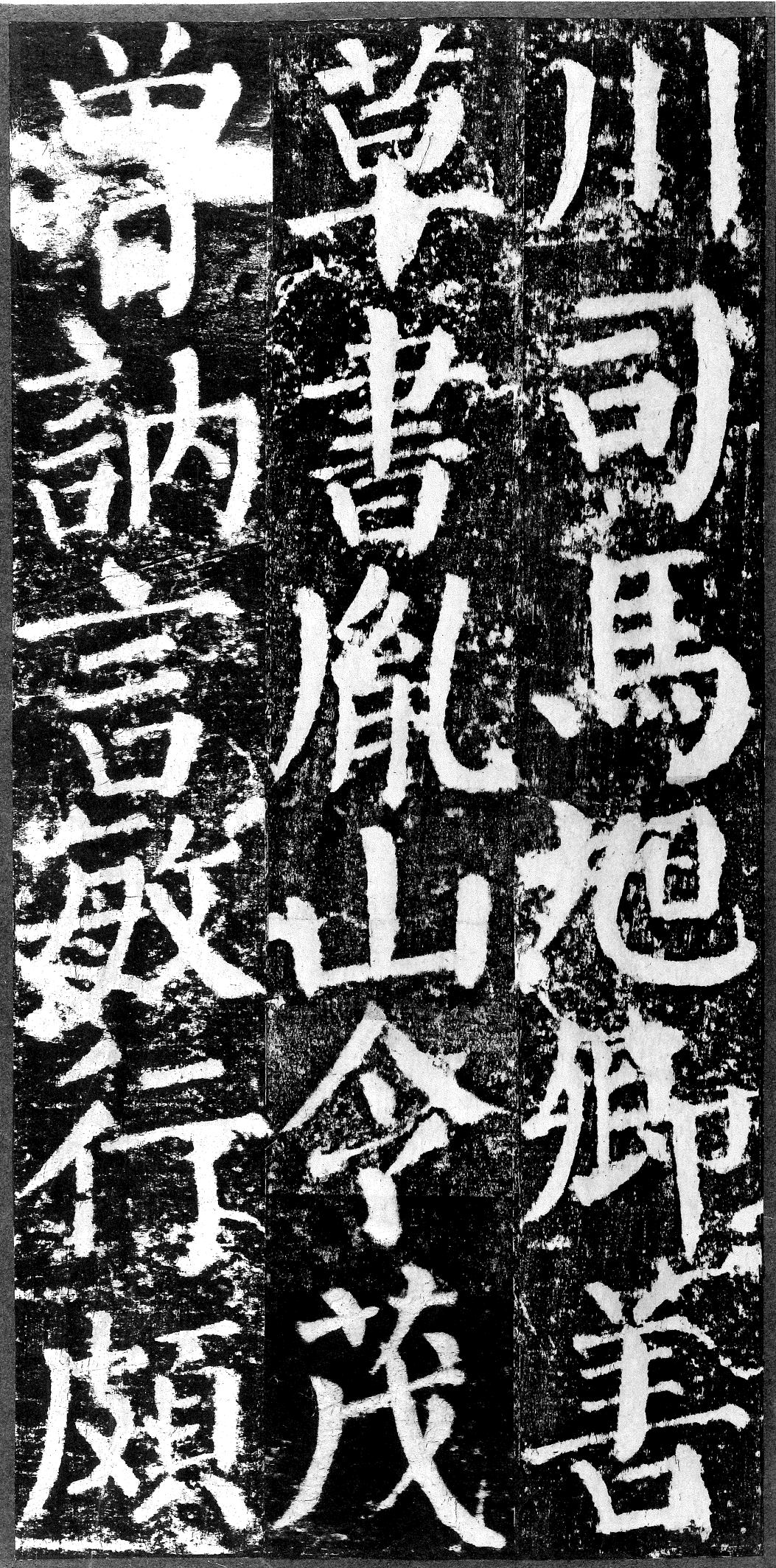
千季高邈。遷衛尉卿。兼御史中丞。城守陷賊。東  
〔何〕千年・高邈を〔擒にす〕。衛尉卿に遷り、御史中丞を兼ぬ。城守は賊に陥れられ、



京遇害。楚毒參下。置言不絕。贈太子太保。謚曰  
〔東〕京害に遇い、楚毒參下す。置言絶えず。太子太保を贈らる。謚して〔忠と〕いう。



忠。曜卿工詩。善草隸。十六以詞學直崇文館。淄  
曜卿は詩に工みにして、草・隸を善くす。十六にして詞學を以て崇文館に直す。



川司馬。旭卿善草書。胤山令。茂曾訥言敏行。頗

〔淄〕川司馬たり。旭卿は草書を善くす。胤山令たり。茂曾は言に訥にして行ないに敏、頗る



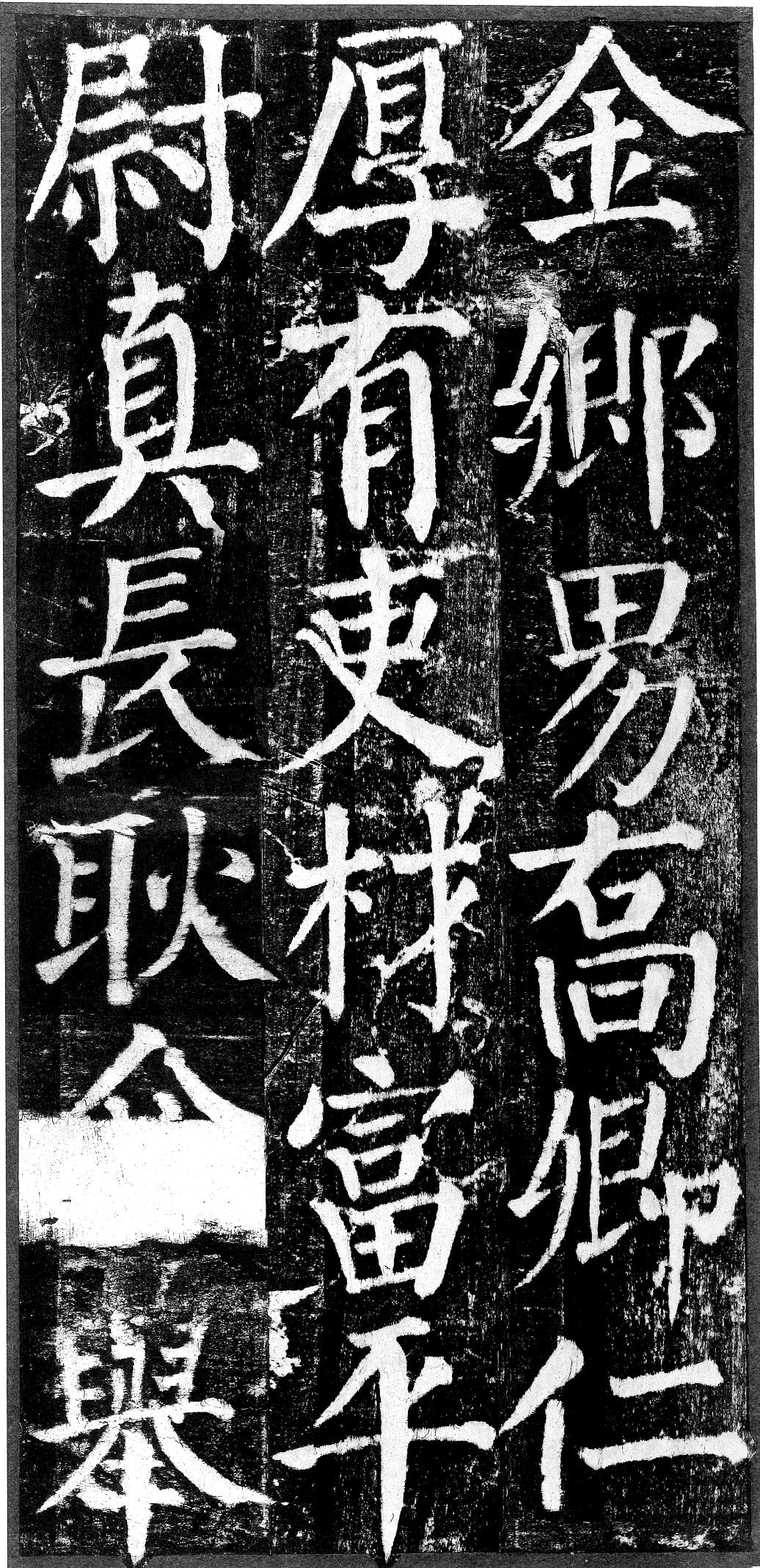
工篆籀。健爲司馬。闕疑仁孝。善詩春秋。杭州參  
篆・籀に工みなり。健爲司馬たり。闕疑は仁孝、詩・春秋を善くす。杭州参(軍)たり。



軍。允南工詩。人皆諷誦之。善草隸。書判頻入等。

允南は詩に工みにして、人皆な之を諷誦す。草・隸を善くす。書判は頻りに等〔第〕に入る。

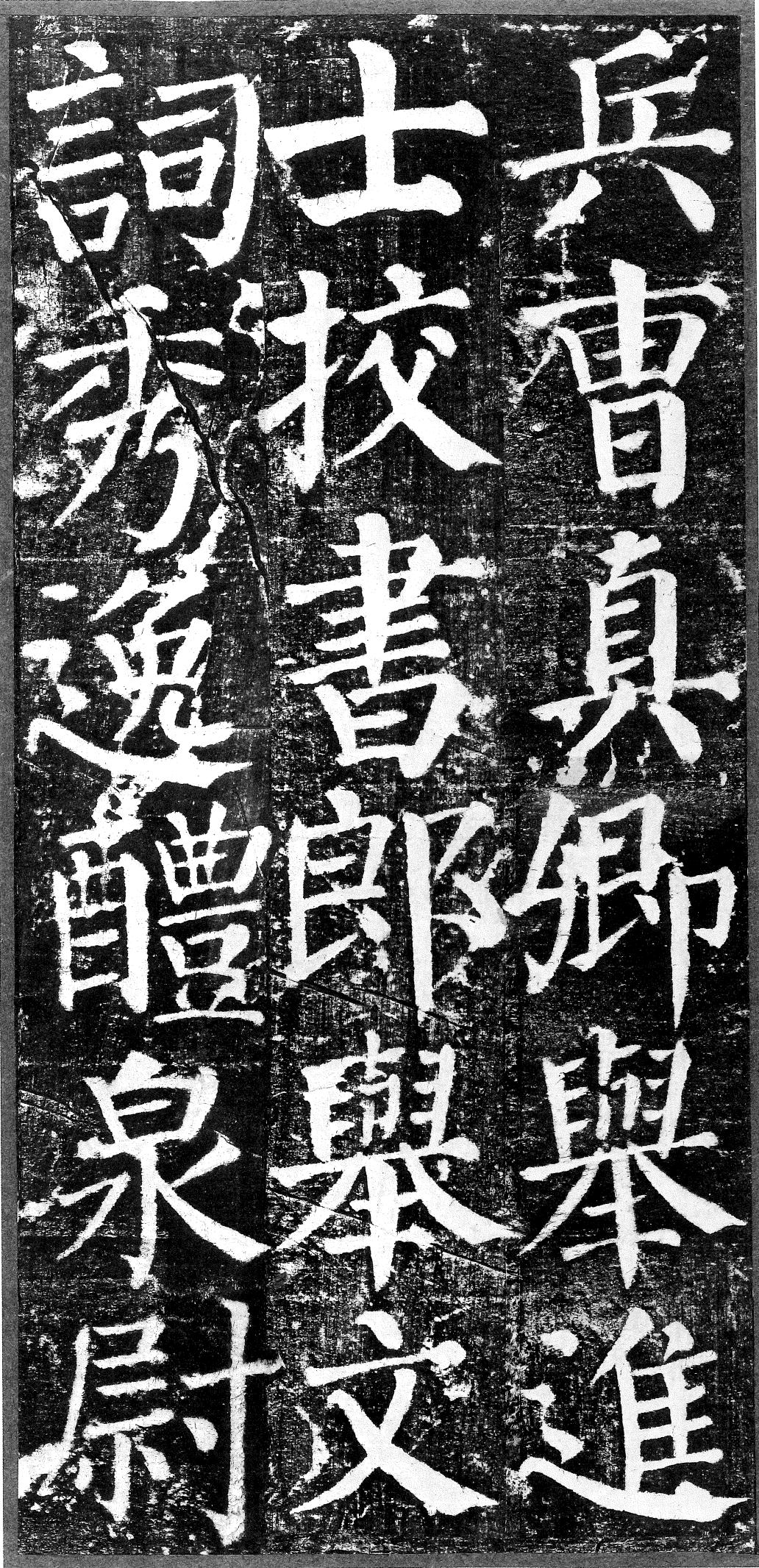
第一。歴左補闕殿中侍御史。三爲郎官。國子司業  
左補闕・殿中侍御史を歴て、三たび郎官と爲る。國子司業。



金鄉男。喬卿仁厚。有吏材。富平尉。眞長耿介。  
金鄉男たり。喬卿は仁厚にして、吏材有り。富平尉たり。眞長は耿介、  
舉

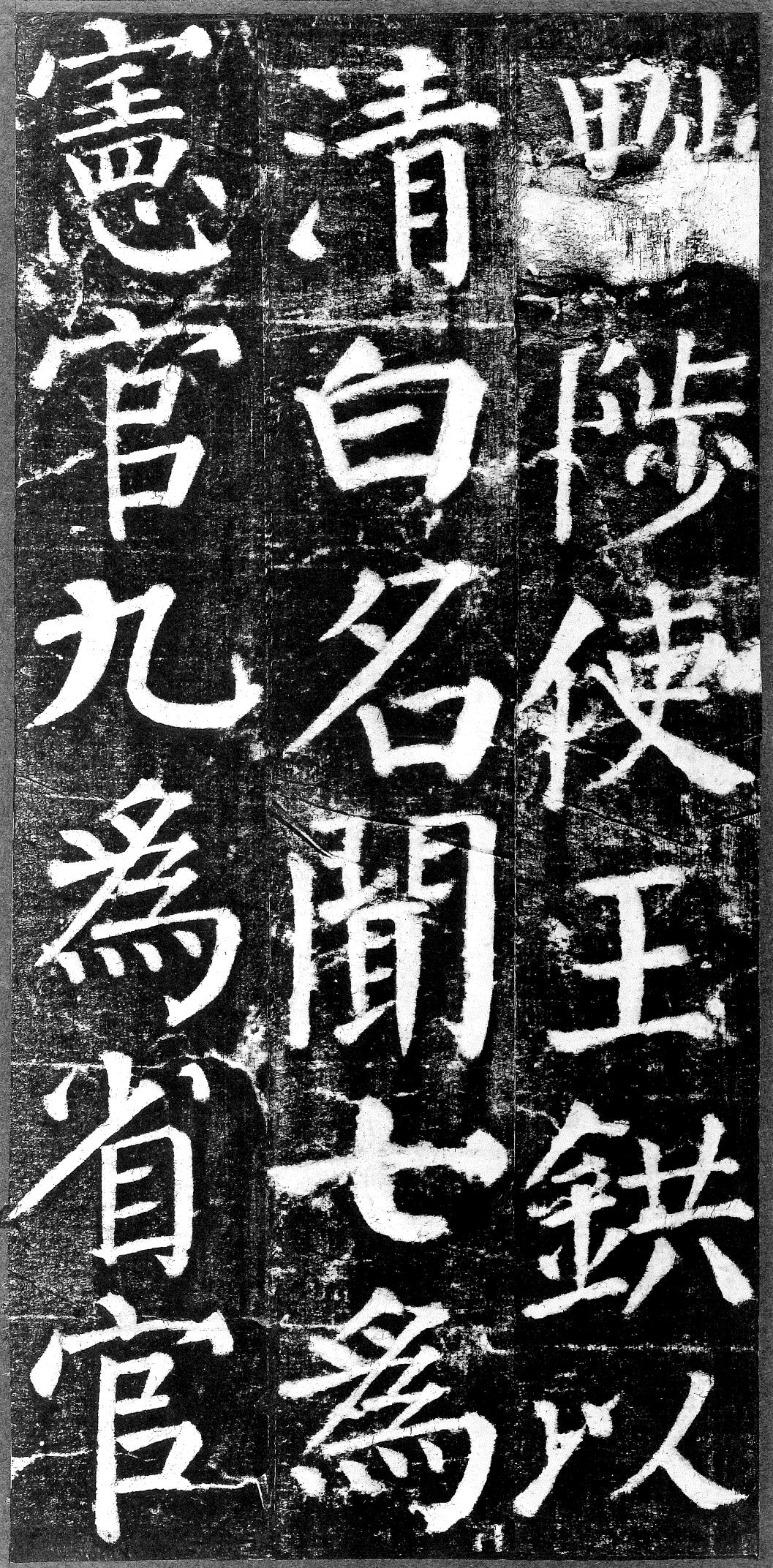


明經。幼興敦雅。有醞藉。通班漢書。左清道率府  
明經に「挙げらる」。幼興は敦雅にして、醞藉有り。班の漢書に通ず。左清道率府(兵曹)たり。



兵曹。眞卿舉進士。校書郎。舉文詞秀逸。醴泉尉。

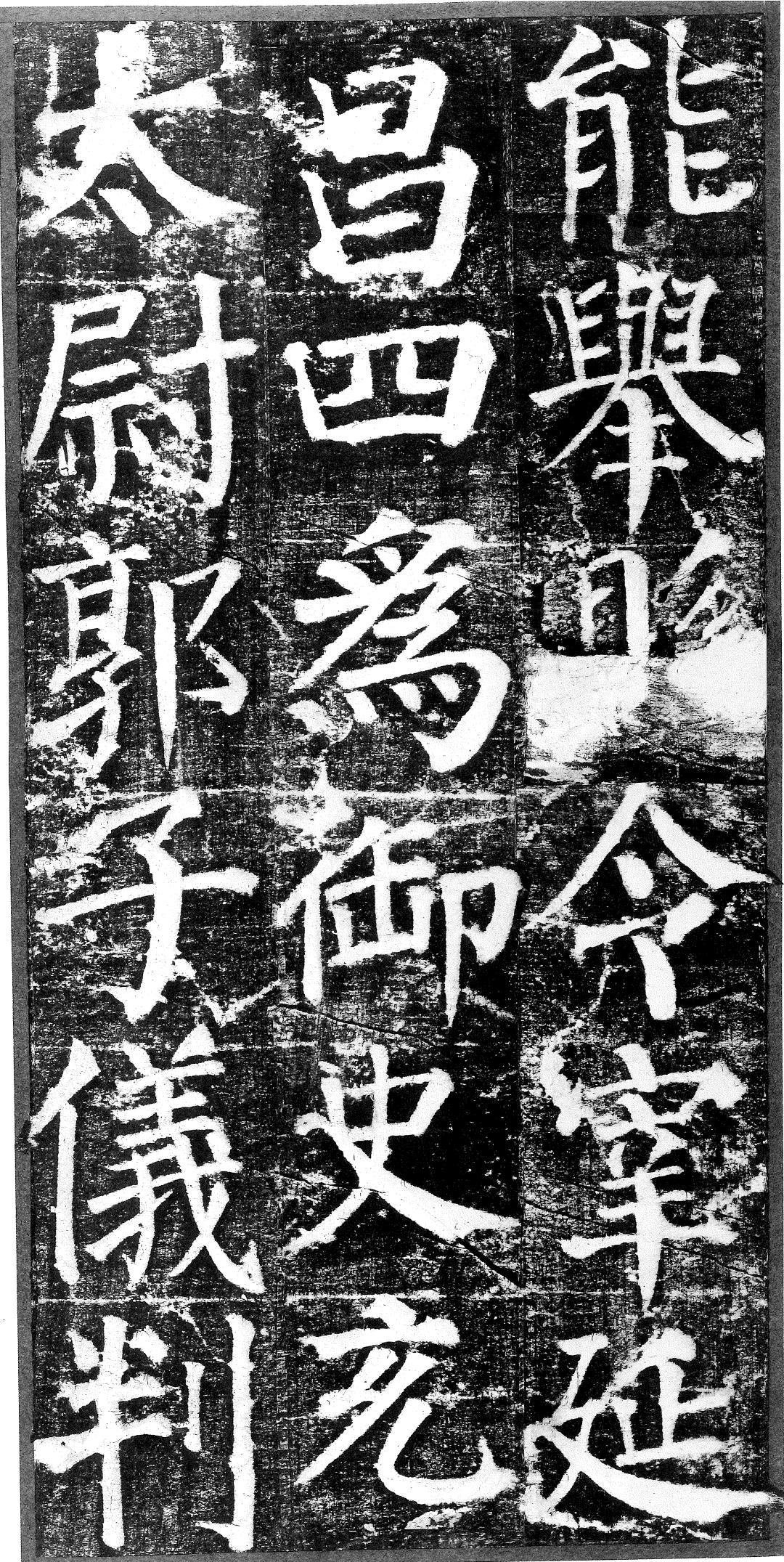
眞卿は進士に挙げられ、校書郎となり、文詞秀逸に挙げられ、醴泉尉たり。



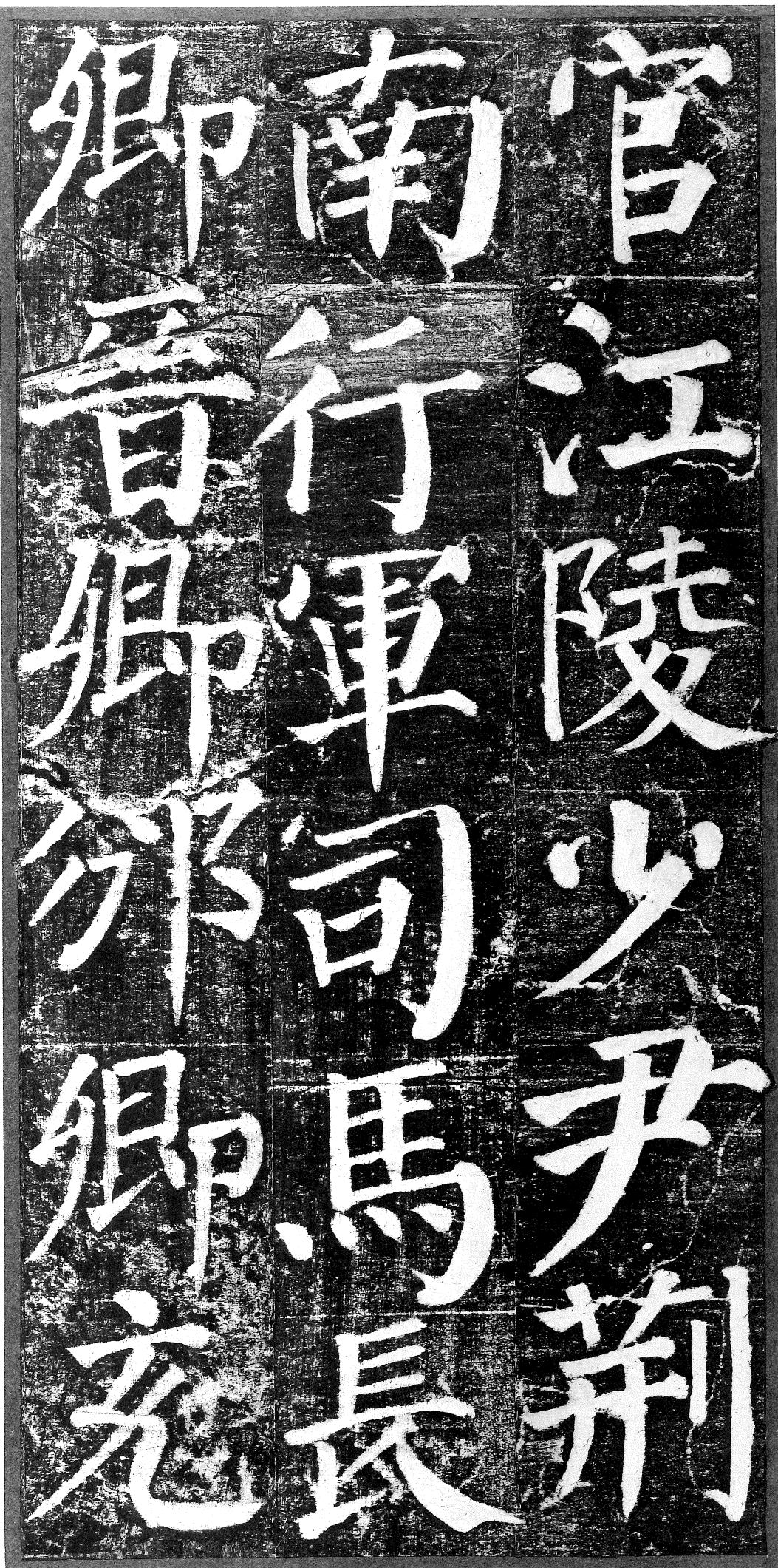
點陝使王鉉。以清白名聞。七爲憲官。九爲省官。  
點陝使王鉉は、清白の名を以て聞す。七たび憲官と為り、九たび省官と為り、



荐爲節度採訪觀察使魯郡公。  
 允臧敦實。有吏  
 裔。有節度。採訪。觀察使。魯郡公。為之。允臧。是敦實。而有之。吏。能。有。



能。舉縣令。宰延昌。四爲御史。充太尉郭子儀判  
県令に擧げられ、延昌を宰す。四たび御史と爲り、太尉郭子儀の判官に充てらる。



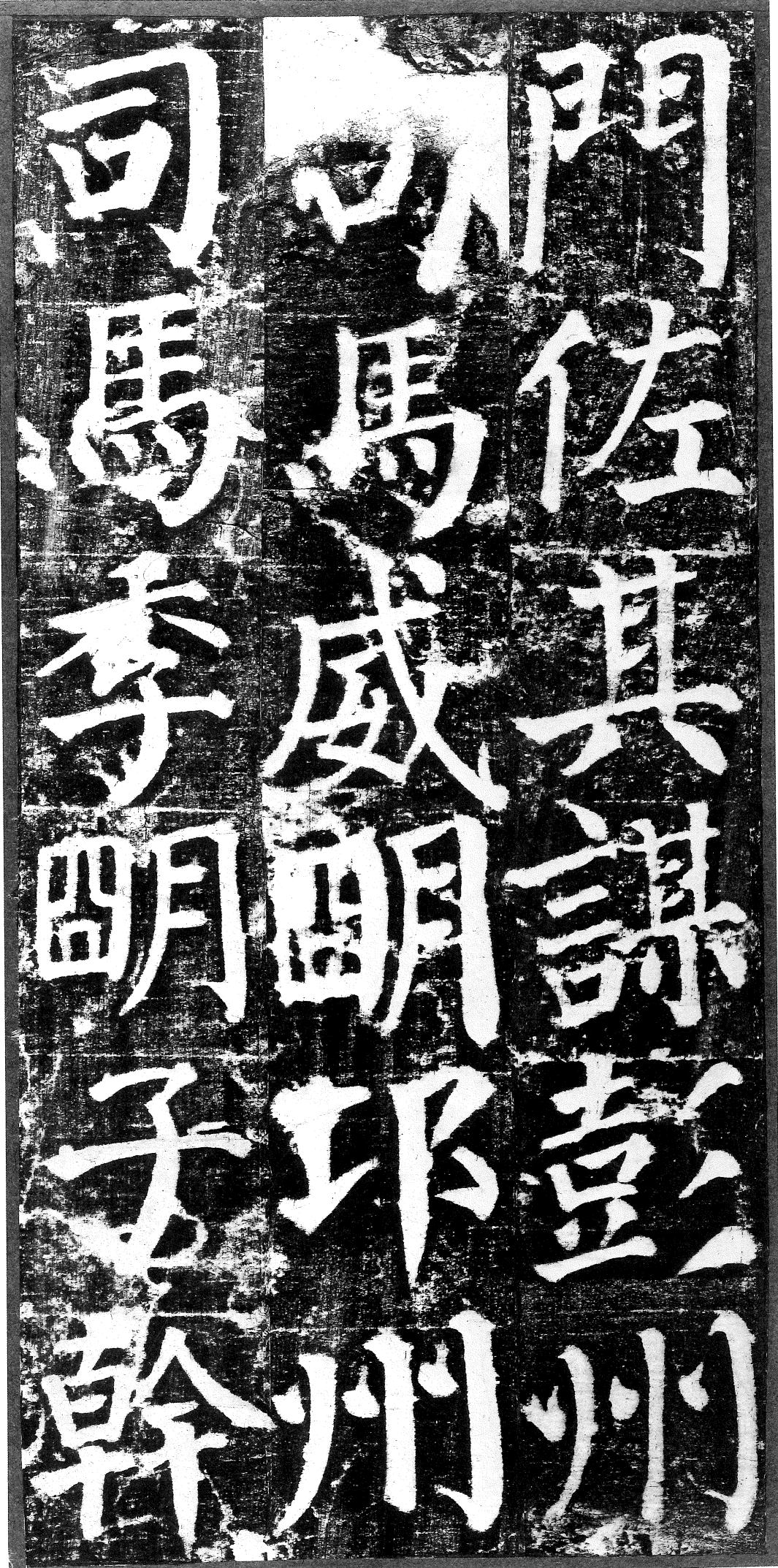
官。江陵少尹荆南行軍司馬。長卿晉卿鄒卿充  
江陵少尹・荆南行軍司馬たり。長卿・晉卿・鄒卿・充〔國〕・充



國質多。無□早出。名卿偶信。並爲武官。玄  
質多は、□無く早出す。名卿・偶・信・伋・倫は、並びに武官たり。玄



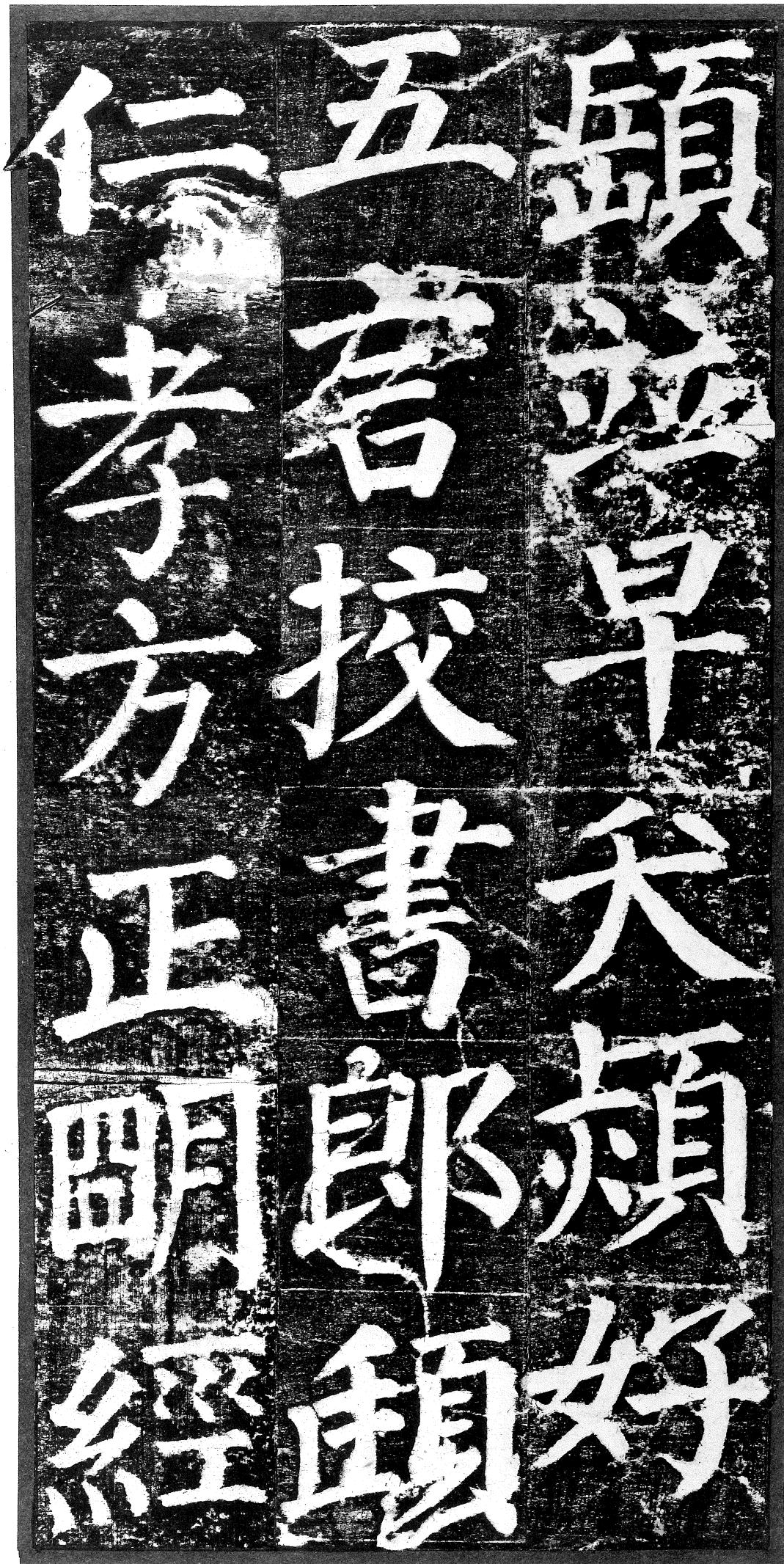
孫紓通義尉。沒于巒。泉翻孝義。有吏道。父開土  
〔玄〕孫の紓は通義尉たり。巒に没す。泉明は孝義にして、吏道有り。父土〔門〕を開くや、



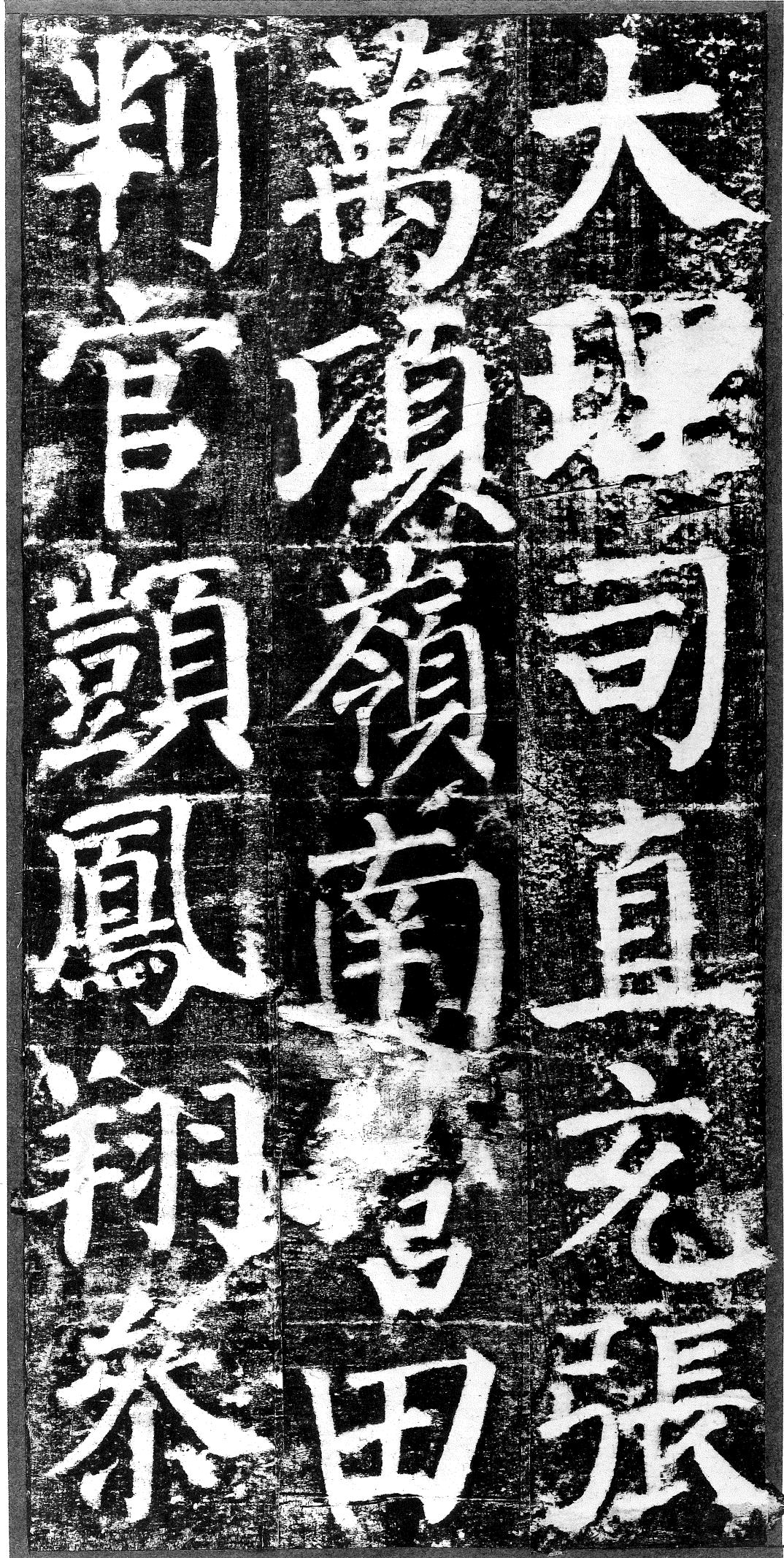
門。佐其謀。彭州司馬。威剛邛州司馬。季剛子幹  
其<sup>モ</sup>謀<sup>ヲ</sup>佐<sup>ク</sup>。彭<sup>モ</sup>州<sup>シ</sup>司<sup>シ</sup>馬<sup>タ</sup>リ。威<sup>モ</sup>剛<sup>モ</sup>邛<sup>モ</sup>州<sup>シ</sup>司<sup>シ</sup>馬<sup>タ</sup>リ。季<sup>モ</sup>剛<sup>モ</sup>の子<sup>ノ</sup>幹<sup>モ</sup>。







頤竝早天。頤好五言。校書郎。頤仁孝方正。剛經  
頤は並びに早天す。頤は五言を好む。校書郎たり。頤は仁孝方正、剛經・



大理司直。充張萬頃嶺南鹽田判官。顓鳳翔參  
大理司直たり。張萬頃の嶺南當田判官に充てらる。顓は鳳翔參(軍)たり。

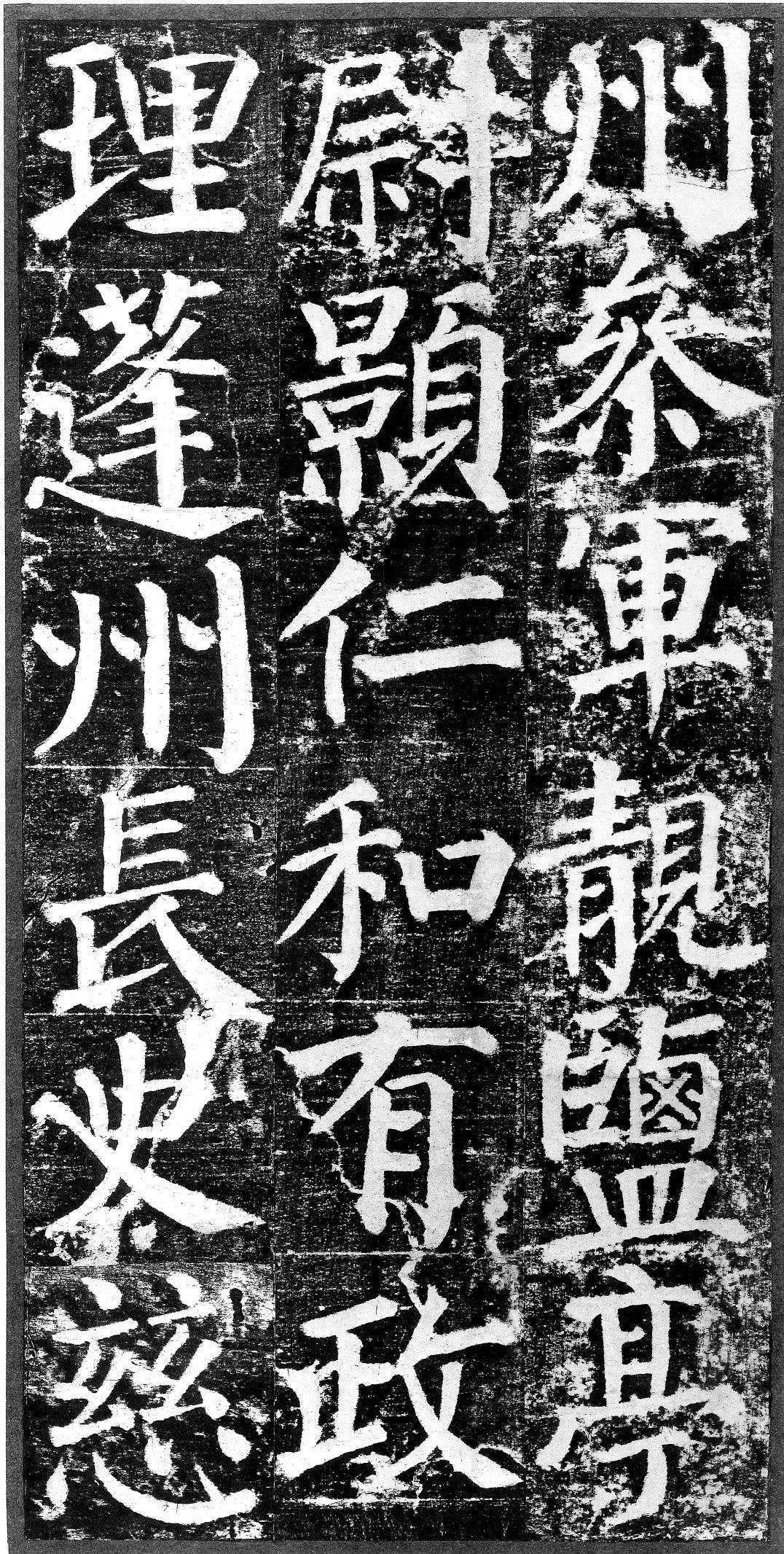
張萬頃の嶺南當田判官に充てらる。顓は鳳翔參(軍)たり。



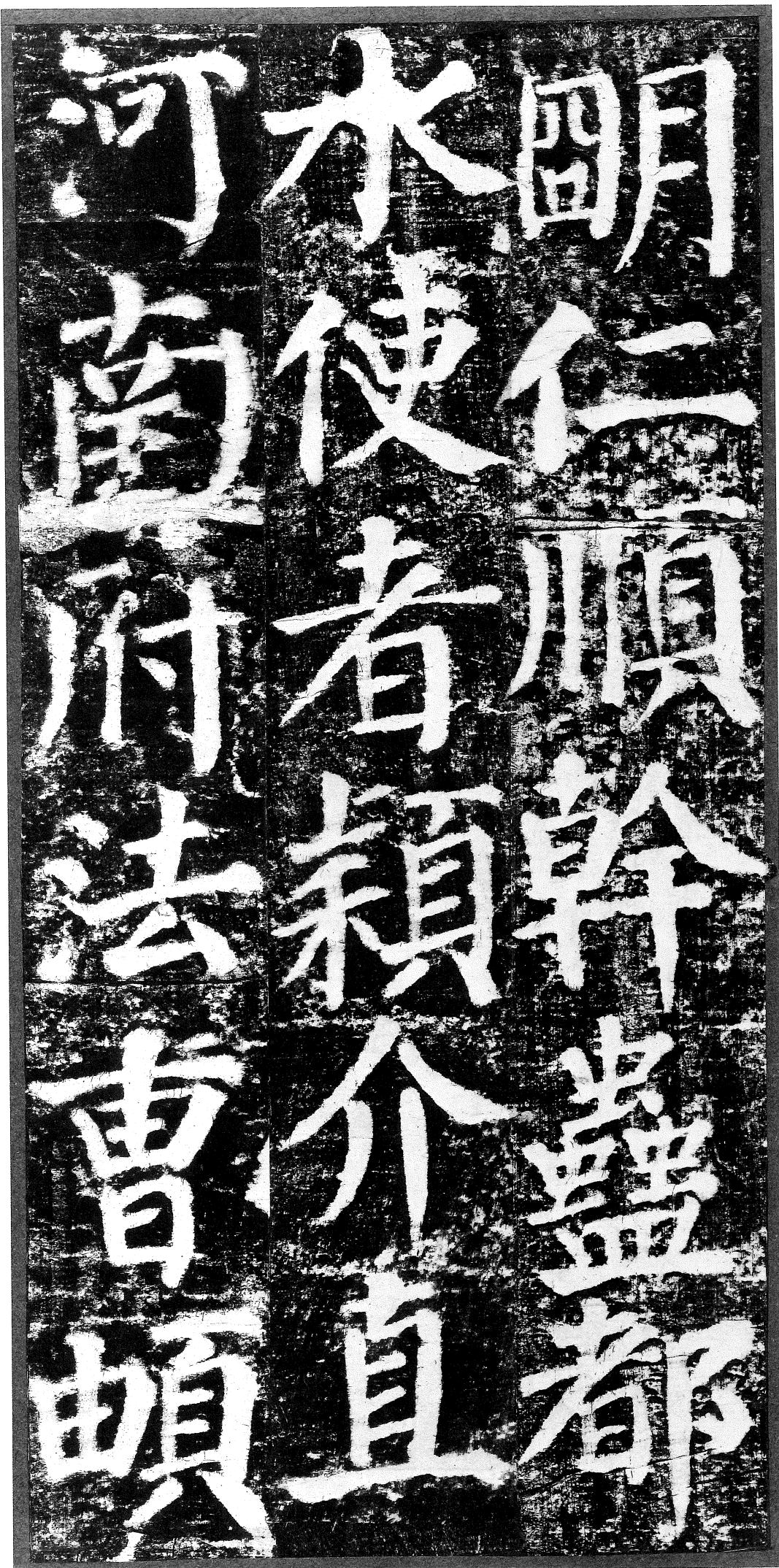
軍。頗通悟。頗善隸書。太子洗馬鄭王府司馬。  
頗は通悟、頗る隸書を善くす。太子洗馬・鄭王府司馬なり。並びに



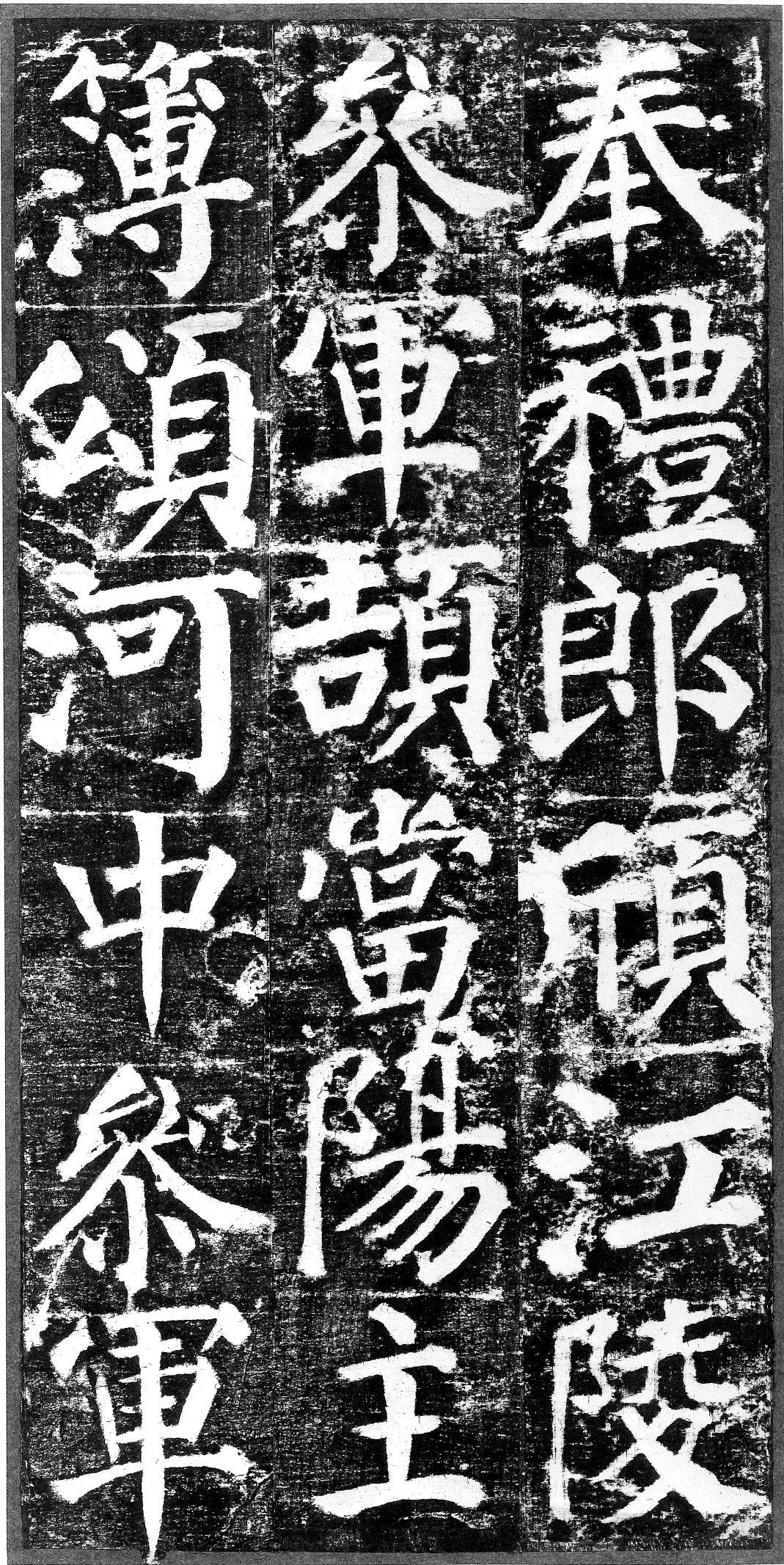
不幸短命。通剛好屬文。項城尉。觀溫江丞。觀綿  
不幸にして短命なり。通明は好んで文を属す。項城尉たり。觀は温江丞たり。觀は



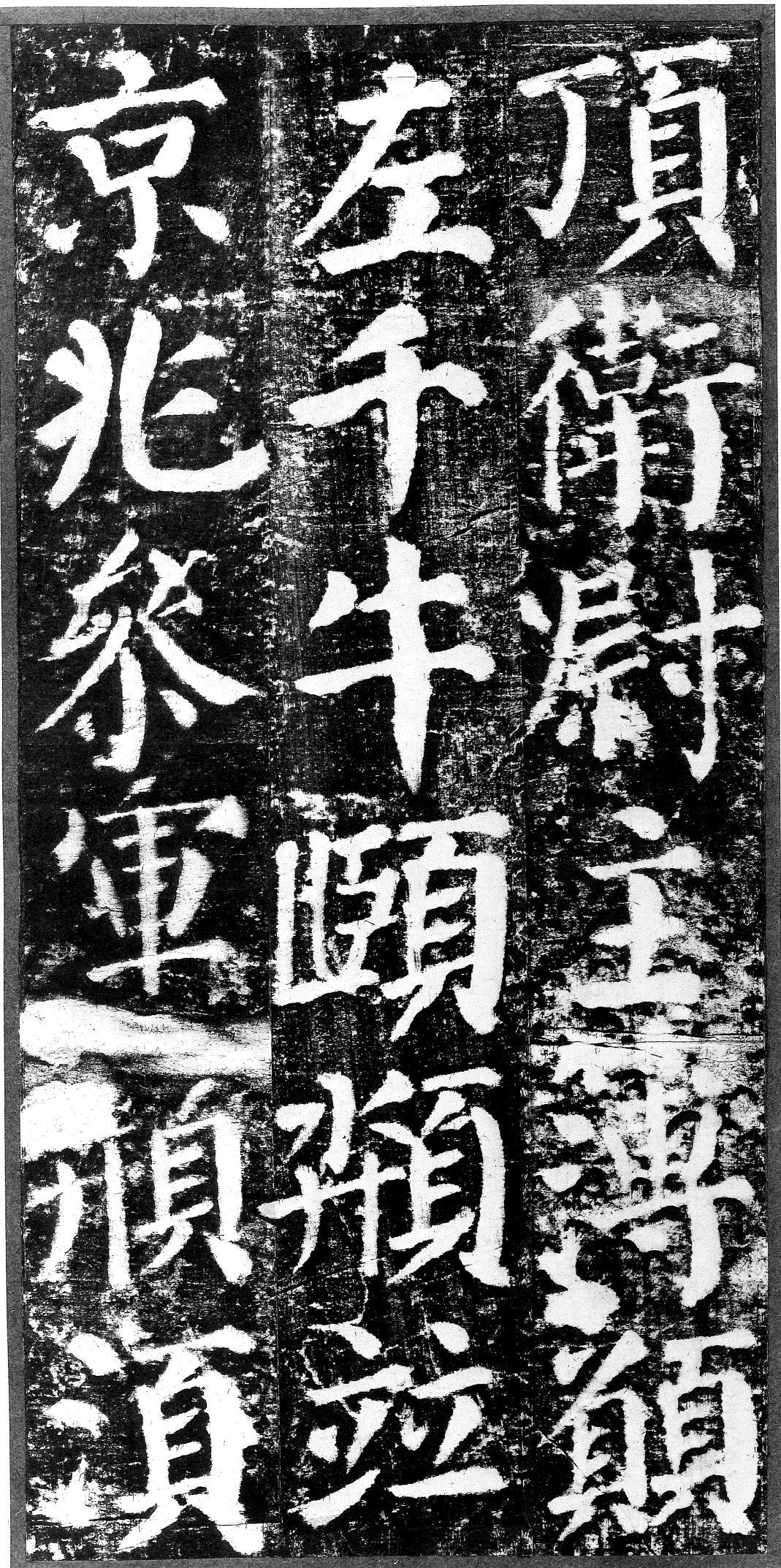
州參軍。覩鹽亭尉。顥仁和有政理。蓬州長史。慈  
〔綱〕州參軍たり。覩は鹽亭尉たり。顥は仁和にして政有り。蓬州長史たり。



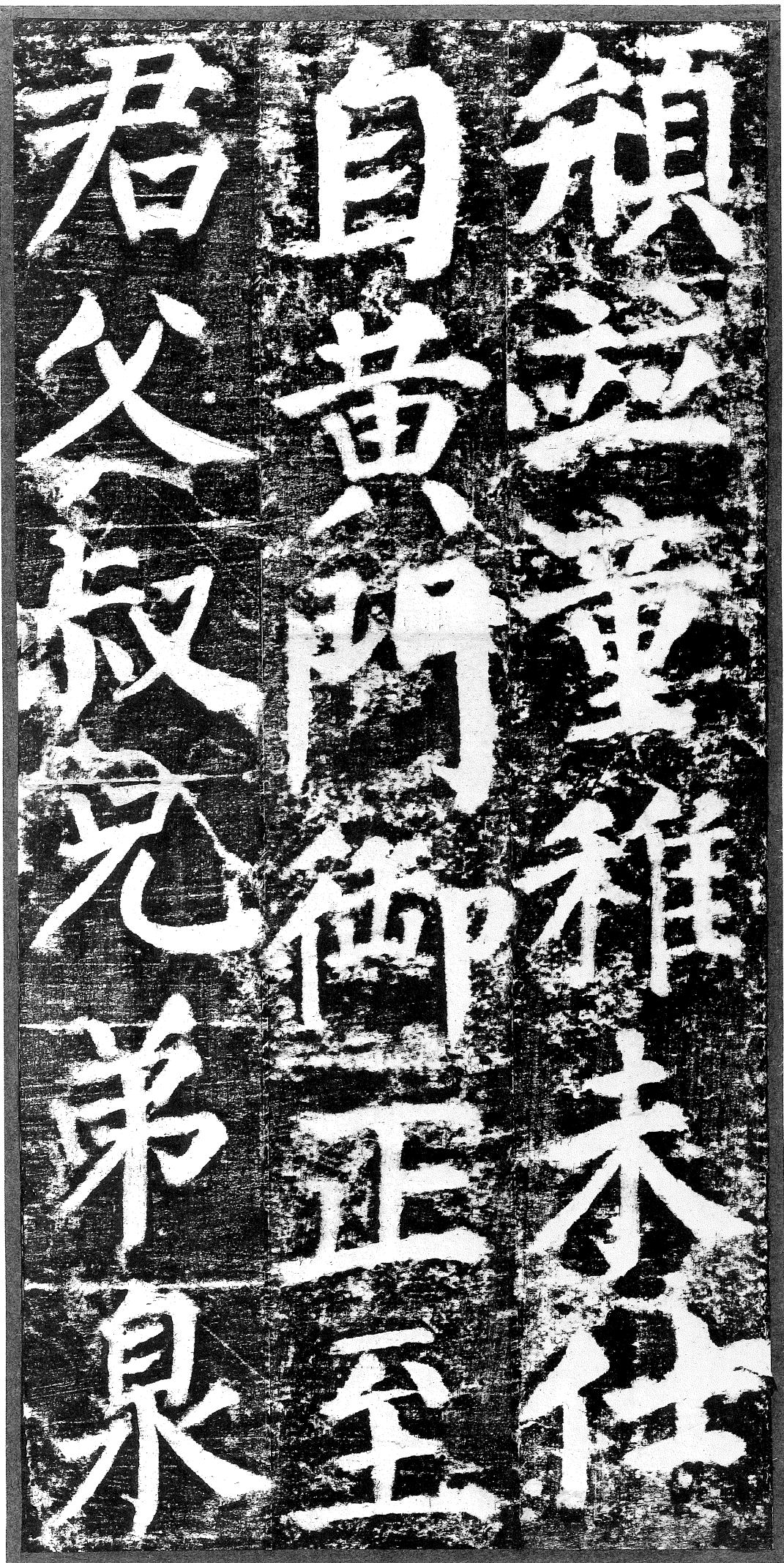
眞仁順幹蠱。都水使者。穎介直。河南府法曹。頓  
〔慈〕明は仁順にして幹蠱、都水使者たり。穎は介直、河南府法曹たり。頓は



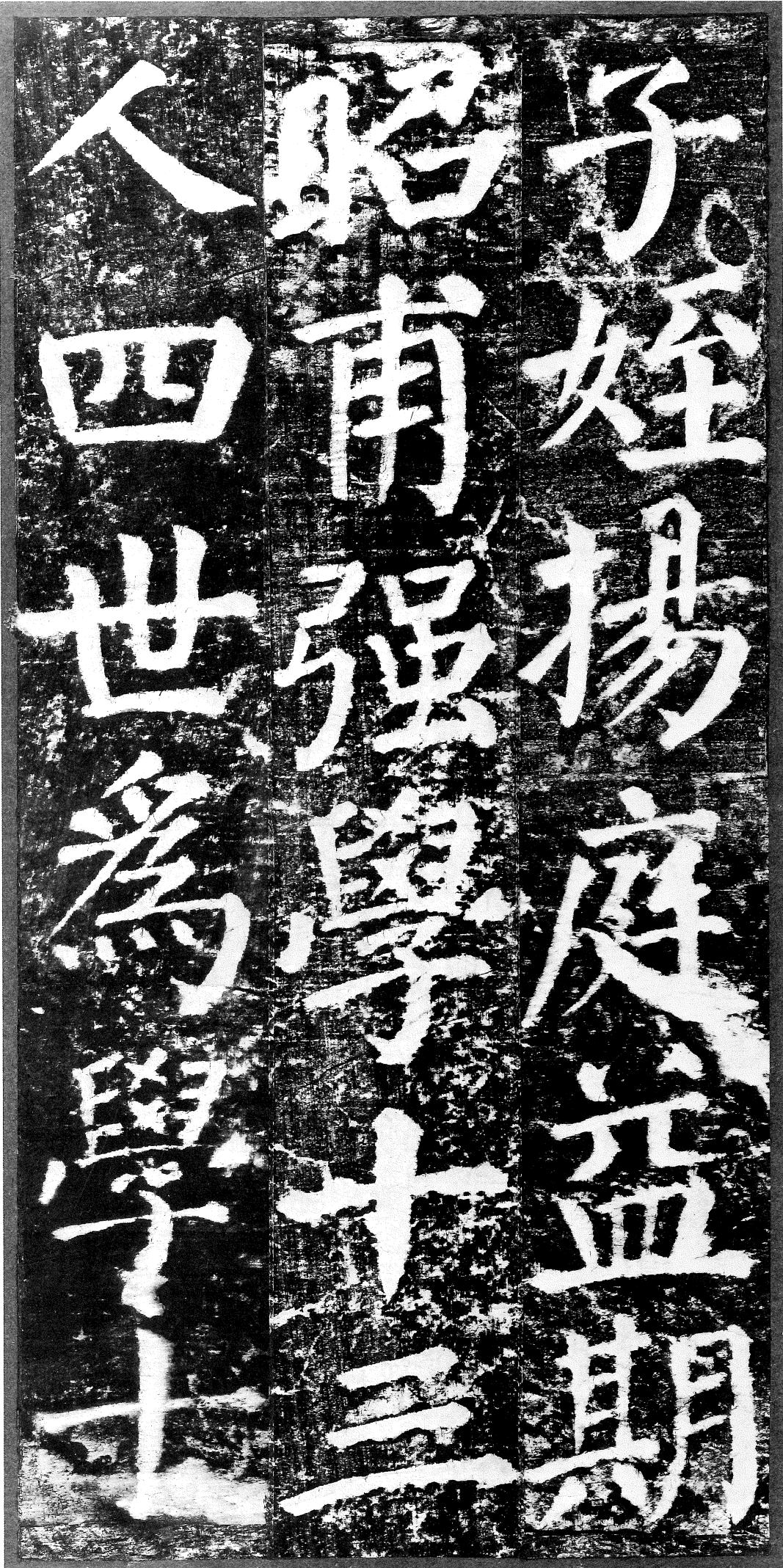
奉禮郎。頤江陵參軍。頤當陽主簿。頤河中參軍。  
奉礼郎たり。頤は江陵参軍たり。頤は当陽主簿たり。頤は河中参軍たり。



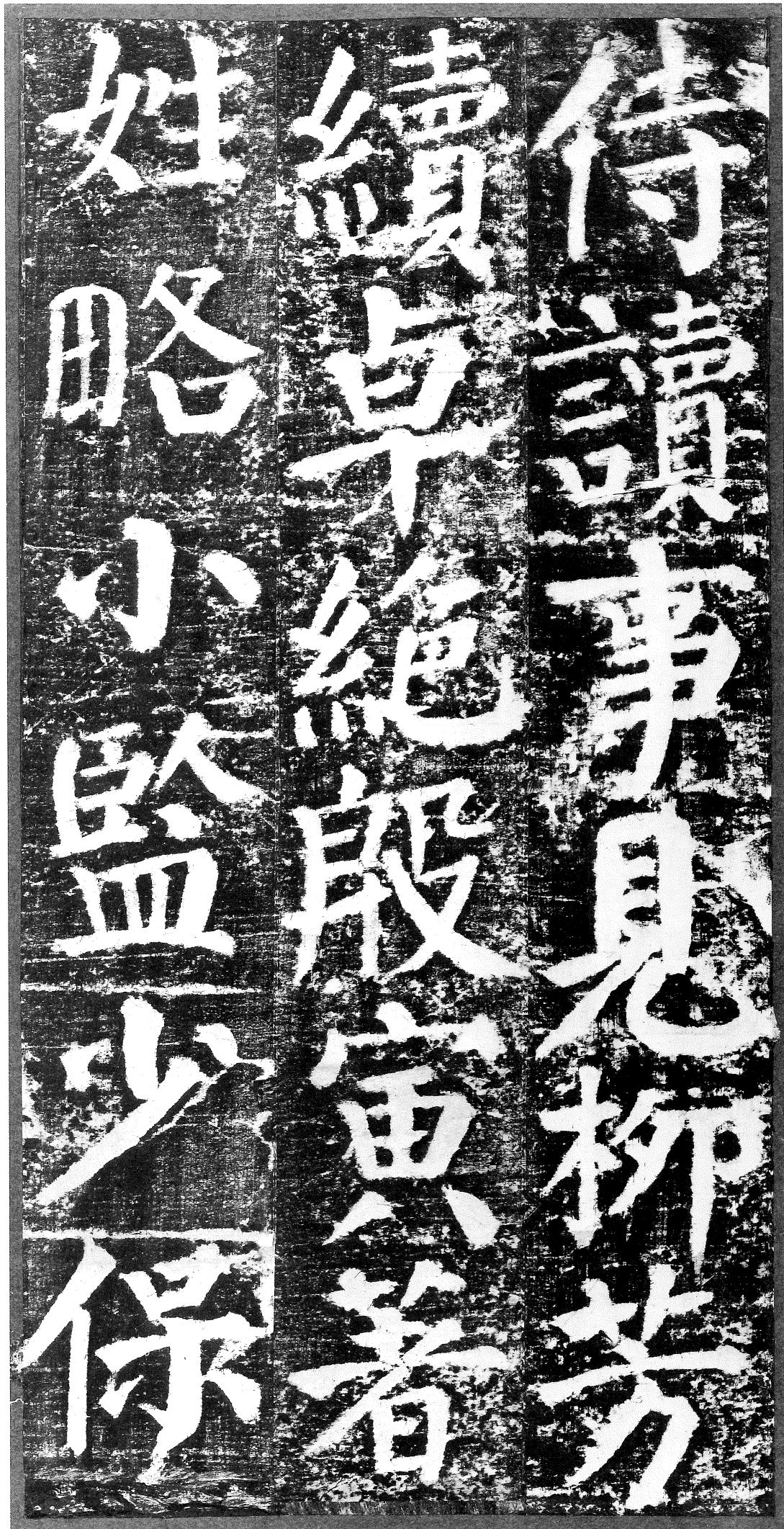
頂衛尉主簿。願左千牛。願頬並京兆參軍。頬須  
頂は衛尉主簿たり。願は左千牛たり。願・頬は並びに京兆參軍たり。頬・須



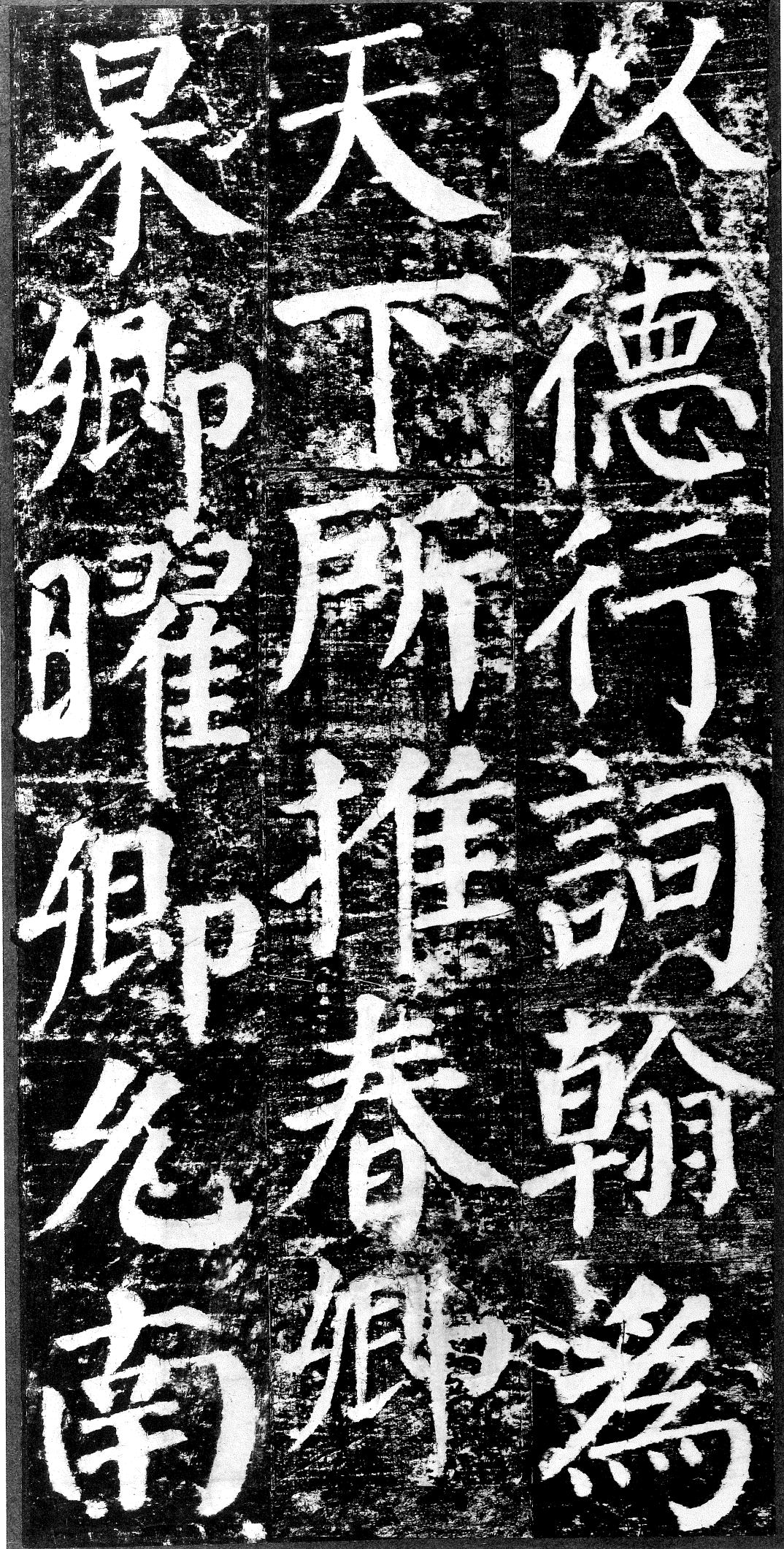
頬竝童稚未仕。自黃門御正。至君父叔兄弟。 息  
頬は並びに童稚にして未だ仕えず。黃門・御正より、君の父叔兄弟、  
兄弟、 息び



子姪揚庭益期昭甫強學。十三人四世。爲學士子姪の揚庭・益期・昭甫・強學に[至る]、十三人四世、学士(侍講)たり。



侍讀。事見柳芳續卓絕殷寅著姓略。小監少保。  
事は柳芳の續卓絕殷寅の著姓略に見ゆ。小監・少保は、



以德行詞翰。爲天下所推。春卿果卿曜卿允南  
德行詞翰を以て、天下の推す所と為る。春卿・果卿・曜卿・允南〔而下〕、



而下。夷君之羣從光庭千里康成希莊日損隱  
息び君の群從の光庭・千里・康成・希莊・日損・隱〔朝〕・



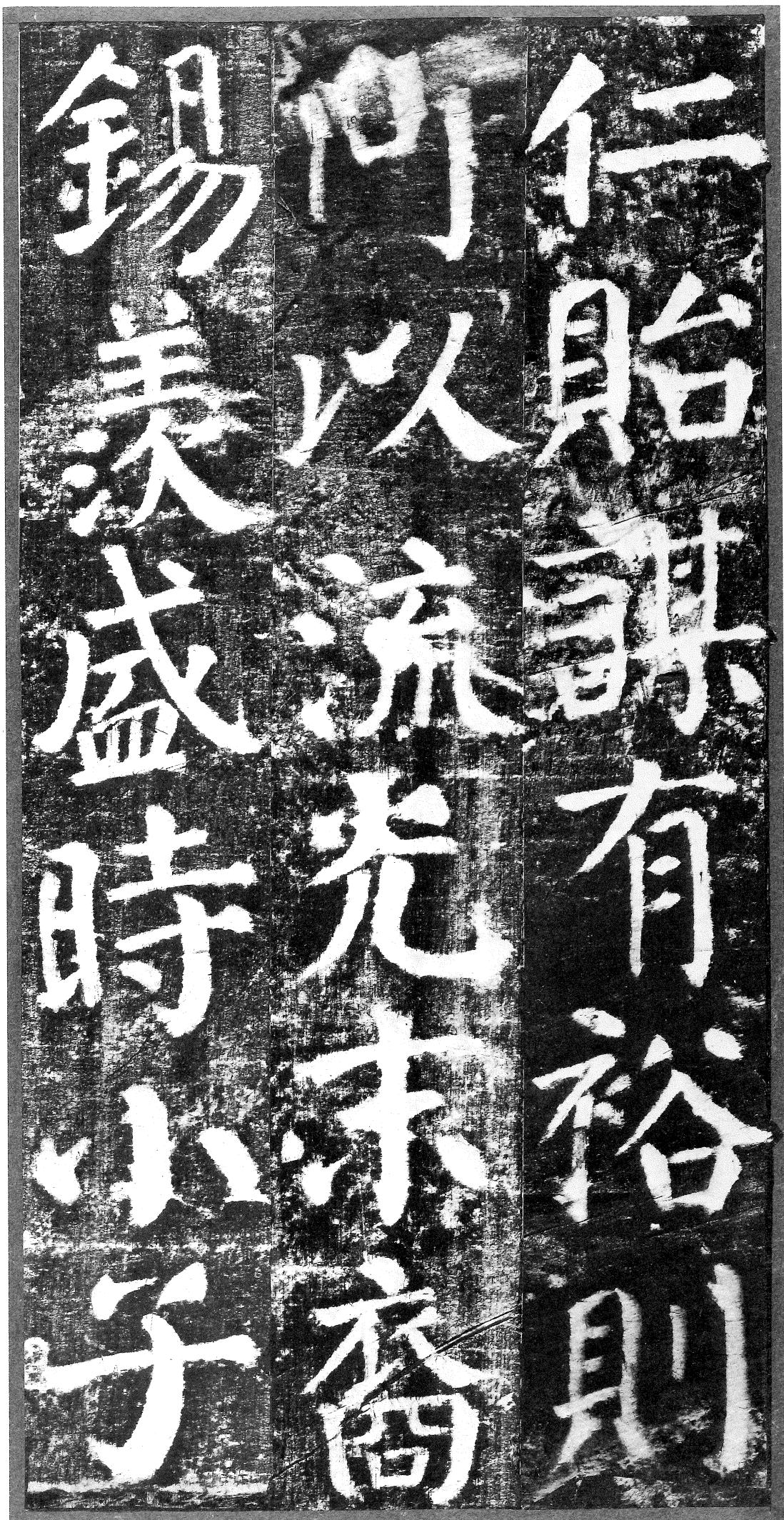
朝匡朝昇庠恭敏鄰幾元淑溫之舒說順勝怡  
匡朝昇庠恭敏鄰幾元淑溫之舒說順勝怡



渾允濟挺式宣韶等。多以名德著述學業文翰。  
渾・允濟・挺・式宣・韶等、多くは名徳・著述・学業・文翰を以て、



交映儒林。故當代謂之學家。非夫君之積德累  
儒林に交映す。故に当代之を学家と謂う。夫君の徳を積み「仁」を累ね、



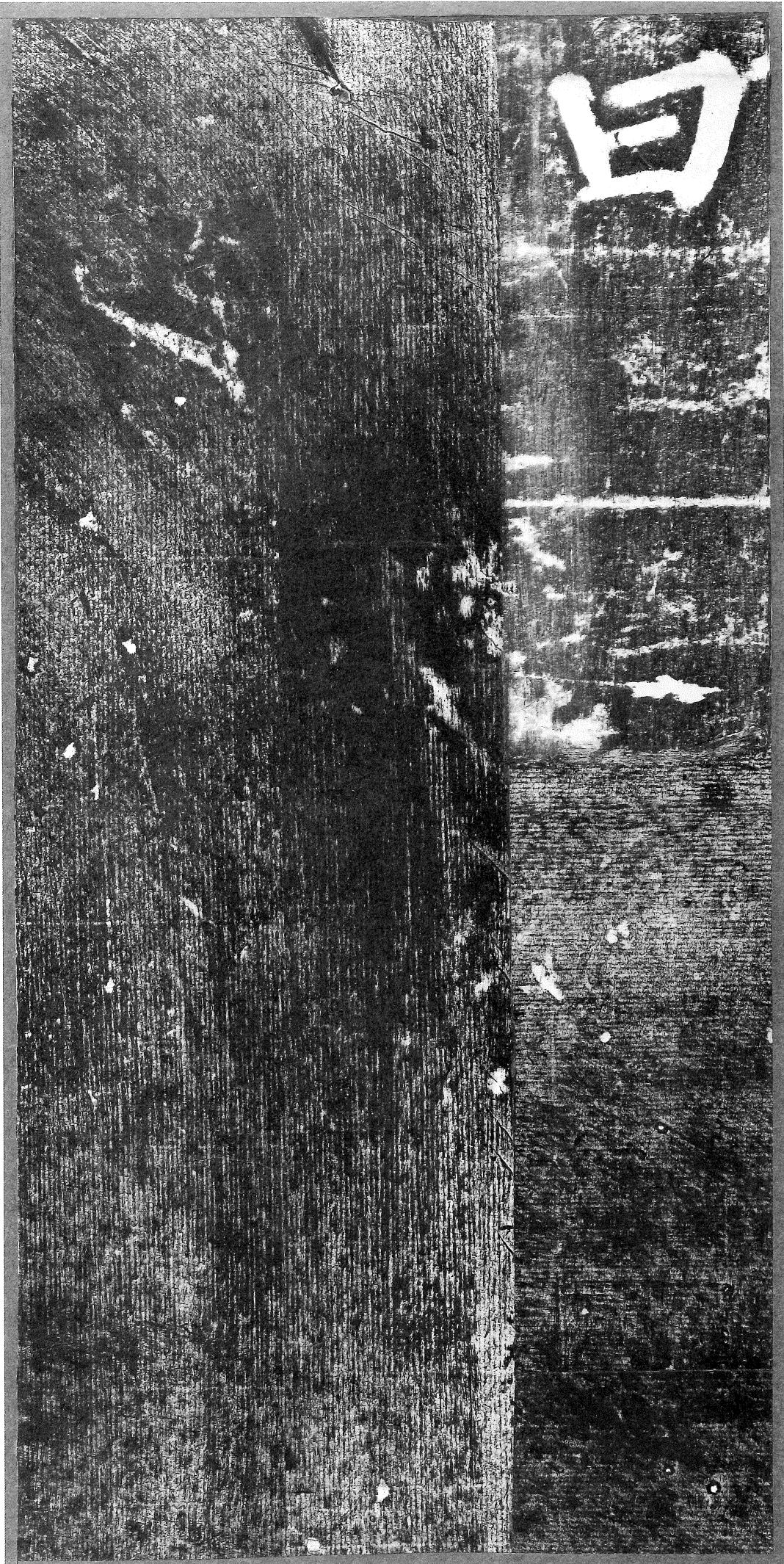
仁。貽謀有裕。則回以流光末裔。錫羨盛時。小子  
謀を貽し裕有るに〔非ざれば〕、則ち何を以てか光を末裔に流き、羨を盛時に錫わんや。



眞卿。聿修是忝。嬰孩集蓼。不及過庭之訓。晚暮  
〔小子〕眞卿、聿修是に忝うす。嬰孩より集蓼、過庭の訓に及ばず。晚暮の



論譲。莫追長老之口。國君曰德美。多恨鬪遺。銘論譲、長老の口を追うこと莫し。故君の徳美、多く鬪遺あるを恨む。銘に



## 解説

角井博

唐四大家の一人、**顔真卿**（景龍三年（七〇九）—貞元元年（七〇五））は、実に多くの作例を今に伝えている。彼の表現は一碑一面貌と言わることく多様で、楷書の中に隸書の法を交えたり、草書の間に篆体・真行を交えたりして妙趣を成しているものが多い。もっとも手慣れた書体は行草で、評価もほぼ一定しているのだが、しかし何と言つても顔真卿の本領は楷書にあつたであろう。ここに紹介する**顔勤礼碑**は、今日見られる顔真卿の楷書作品のうちでは最晩年期に属するもので、しかも近年にいたり再び世に現われた優作である。

この碑は顔真卿が曾祖父顔勤礼のために陝西長安郊外の萬年県寧安郷鳳栖原にある墓の側に立てた神道碑で、撰書ともに顔真卿自身の手になる。宋代には拓本も伝えられ、**歐陽脩**『集古錄跋尾』、**趙明誠**『金石錄』とともに著録し、『宝刻類編』にも載せられているが、元明以後、土中に埋没したとみえて、明清間には拓本さえ伝わらず、著録にも記載がなかつた。ところが中華民国十一年（一九二二）十月、長安の布政司所属の倉庫の後方より原石が出土し、金石家の注目を浴びた。発見者は**何夢庚**（字は客星）。碑石はいま陝西省博物館（西安碑林）に保護されている。石は二つに割れていたので、毎行一、二字欠けているが、その上下はどちらも完好である。文は四面に環刻されており、正面は一九行で毎行三八字、第二面は五行で毎行三七字、第三面は二〇行で毎行三八字、右側は銘文が刻されていたはずだが、すでに削り取られており、現在およそ千六百余字を数えている。銘文がないため建碑の年代は確定できないが、碑文により大曆十四年（七七九）頃、すなわち七十一歳前後であると考えられている。

本碑は完整ではないが、なにしろ長く土中につけて後世の人の手が入っていないため、たとえ新拓であつても残存する文字は筆法が明確である。したがつて、顔真卿の真相を研究するには最適の作と言うことができよう。とりわけ損傷の少ない第三面（碑陰）などは今刻したばかりといってよいほど生々しいところがあり、「真跡を離ること一等」という表現そのままの拓本に接することができる。ただし、世に旧拓は皆無であろう。**王壯弘**『増補校碑隨筆』は、出土時初拓本は末行「長老之口故」の故字が断裂の筋に当たつても筆画を損していないというが、この種のものもなかなか見当たらぬようである。本冊には幸い、それに類する稀有の善本を掲載することができた。顔書の柔らかく円いが剛直というものを感じさせる筆線、力強く構えた向勢は、よほど特異なものである。

中国法書選 42  
顏勤礼碑 唐 顏真卿

1988年11月10日 初版第1刷発行  
1992年8月10日 初版第3刷発行

発行者 渡邊隆男  
発行所 株式会社二玄社

東京都千代田区神田神保町2-2 〒101  
電話 03(3263)6051  
振替 東京4-28782

原本 個人蔵  
解説 角井博  
訳文 藤原有仁  
表紙 ダイニック株式会社  
印刷 株式会社東京印書館  
製本 牧製本印刷株式会社  
装幀 加藤光太郎デザイン事務所  
ISBN 4-544-00542-6 05421  
無断転載を禁ず